秋田県立博物館

年　　報

令和２年度

秋田県立博物館

は　じ　め　に

秋田県立博物館の使命については、昭和47年３月に策定された設立構想の中に「県民に郷土の自然、歴史に興味関心を促し、魅力ある地域社会を創るべき、県民の自発的学習の場を提供すること」と記されています。この指針が示されてから、まもなく半世紀を迎えようとする今、私たちはあらためてこれまでの活動を振り返り、設立構想の使命を果たしているのかを自問自答していかなければいけません。

さて本年は開館から45年目を迎えます。これからも社会の変化や県民のニーズに応えることにより、地域に貢献できる博物館を目指してまいります。当館では今年度より「中期ビジョン2020－2024」を掲げて、秋田の豊かな文化遺産を活かした学びをとおして、郷土への愛着と誇りを醸成し、かけがえのない「ふるさと秋田」に寄り添っていきたいと考えております。

博物館は、県民や地域社会から託された資料を大切に保存・管理しつつ、調査研究活動を重ねてその成果を未来・次世代に伝える活動を担っています。「知」を伝承し、「知」に触れることの感動や学びあうことの楽しさを伝えながら、新しい価値を創造する博物館、生涯学習・学校教育の一翼を担いながら、多様な機能を発揮する博物館を目指して全館員で努力してまいります。

今後も県民文化の向上に寄与する博物館としての使命に、スタッフ一同力を合わせて取り組んでまいりますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県立博物館

館長　髙　橋　　正

目次

■　施設の概要

Ⅰ　博物館のあゆみ …… 4

Ⅱ　施設・設備 …… 5

Ⅲ　展示室 …… 9

Ⅳ　組織 …… 13

Ⅴ　職員 …… 14

■　事業の概要

Ⅰ　令和２年度博物館運営方針 …… 16

Ⅱ　令和２度博物館事業計画 …… 16

　1　重点目標 …… 16

　2　活動計画 …… 17

Ⅲ　2019年度事業報告 …… 20

　1　調査研究活動 …… 20

　2　資料収集管理活動 …… 23

　3　展示活動 …… 25

　4　教育普及活動 …… 31

　5　広報出版活動 …… 35

　6　学習振興活動 …… 36

　7　館外活動 …… 39

　8　2019年度のあゆみ …… 40

■　資料

Ⅰ　収蔵資料の概要 …… 42

Ⅱ　歴代館長、特別展等一覧 …… 43

Ⅲ　秋田県立博物館条例 …… 44

Ⅳ　秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） …… 45

　教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋） …… 46

Ⅴ　入館者に関する資料 …… 47

施設の概要

Ⅰ　博物館のあゆみ

昭和42年１月　第２次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月　県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
47年３月　県立博物館設立構想完成
49年11月　定礎式
50年３月　秋田県立博物館条例制定
５月　開館式（５日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
７月　登録博物館となる（登録日50.7.1）
53年10月　皇太子皇太子妃両殿下行啓
54年１月　生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
55年５月　秋田県博物館等連絡協議会発足
59年９月　開館10周年記念式典
63年９月　本館屋根防水工事完了
平成３年８月　秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
９月　分館旧奈良家住宅屋根修理着工
４年11月　分館旧奈良家住宅屋根修理完成
５年７月　増築工事着工
７年８月　増築工事完成
８年４月　「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
９年８月　ニューミュージアムプラン（ＮＭＰ）21検討委員会設置
11年４月　入館料が無料となる
14年４月　ニューミュージアムプラン（ＮＭＰ）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
15年10月　改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
16年３月　展示工事完成
４月　リニューアルオープン
17年12月　開館30周年記念式典
18年３月　旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
20年７月　クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
27年９月　開館40周年記念式典

Ⅱ　施設・設備

設置場所　秋田市金足鳥崎字後山52
敷地面積　14,885.9㎡
建築面積　6,237.93㎡
建築延面積　11,946.2㎡
建築構造　鉄骨鉄筋コンクリート造り
地上３階、塔屋２階建

【建築工事】
建築費　2,058,131千円
（含調査事務費・展示資料費）
着工　昭和48年７月
竣工　昭和49年11月
開館　昭和50年５月
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　三井建設㈱
設備施工　㈱三晃空調
東北電気工事㈱
展示設計施工　㈱丹青社

【増築工事】
建築費　1,578,174千円
（含調査事務費・展示資料費）
着工　平成６年７月
完成　平成８年２月
増設開館　平成８年４月
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　三井建設㈱
設備施工　㈱ユアテック
日の出施設工業㈱
㈱三和施設
日本オーチスエレベータ㈱
展示設計施工　㈱アートシステム

【ＮＭＰ事業】
事業費　2,087,400千円
｛総事業費（含調査事務費、
展示製作委託費）｝
着工　平成14年３月
完成　平成16年３月
リニューアル開館
平成16年４月29日
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　㈱林工務店
㈱清水組ＪＶ
設備施工　大民施設工業㈱
㈱あたごＪＶ
㈱中田建築設備
㈱ユアテック秋田支社
サン電気工業㈱
展示製作実施設計　㈱丹青社
展示製作委託施工　㈱乃村工藝社

設備

〈電気設備〉
(1)　受電電圧　３φ6,600Ｖ　50HZ
一般照明用　450KVA　(150×３)
一般動力用　550KVA　(300×１)
(250×１)
非常照明用　50KVA
非常動力用　150KVA
(2)　発電機設備　発電電圧　３φ6,600Ｖ
50HZ　200KVA
エンジン　ディーゼル　230KVA
(3)　蓄電池設備　108Ｖ　200AH　10HR
54セル
(4)　その他幹線・動力・電灯用設備一式

〈警戒（報）設備〉
(1)　レーダー警報設備（展示室・収納庫）
方式、パッシブインフラレッド方式
レーダー検出　10ヶ所
ドアスイッチ　10ヶ所
(2)　Ｉ・Ｔ・Ｖ監視設備
監視用カメラ　21台
（展示室14台　収蔵庫４台
１Ｆホール１台　外２台）
(3)　一般・非常放送設備
ロッカ型防災アンプ　容量　200W
非常時警報音　自動吹鳴式（サイレン）

〈空調換気設備〉
(1)　冷凍機設備（備熱水槽方式　容量780m³）
直焚吸収式冷温水機　冷却能力
1,220KW　加熱能力　1,200KW　１基
ターボ冷凍機（夜間蓄熱運転系統）
冷却能力　312KW　１基
空冷チリングユニット（夜間運転系統）
冷却能力　132KW　１基
(2)　ボイラー設備
貫流ボイラー（暖房・加湿用）熱出力　940KW
（換算蒸発量1,500kg/h）

伝熱面積　9.9m³　２基

(3)　空気調和設備（10系統）

冷却能力合計　897.8KW

加熱能力合計　524.6KW

(4)　換気設備一式

給気量（７系統）合計　25,850m³/h

排気量（９系統）合計　28,360m³/h

(5)　空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1)　防災設備　排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2)　消火設備　屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所　屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備（収蔵庫のみ　３区画）

二酸化炭素消火設備（収蔵庫のみ　２区画）

〈その他の設備〉

(1)　荷物用エレベーター

容量2,500kg　45m／min　１基

(2)　乗用エレベーター

積載量750kg　11人乗45m／min　２基

(3)　電話設備　局線５回線　内線57回線

(4)　衛生設備　給排水設備一式

(5)　ガス設備及び避雷針設備

(6)　ガス燻蒸消毒設備

建　築　予　算

単位：千円

区　　分	44～46年度	47　年　度	48　年　度	49　年　度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	－	－	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	－	－	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増　築　予　算

単位：千円

区　　分	３～４年度	５　年　度	６　年　度	７　年　度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	－	－	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	－	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	－	－	－	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

ＮＭＰ21事業予算

単位：千円

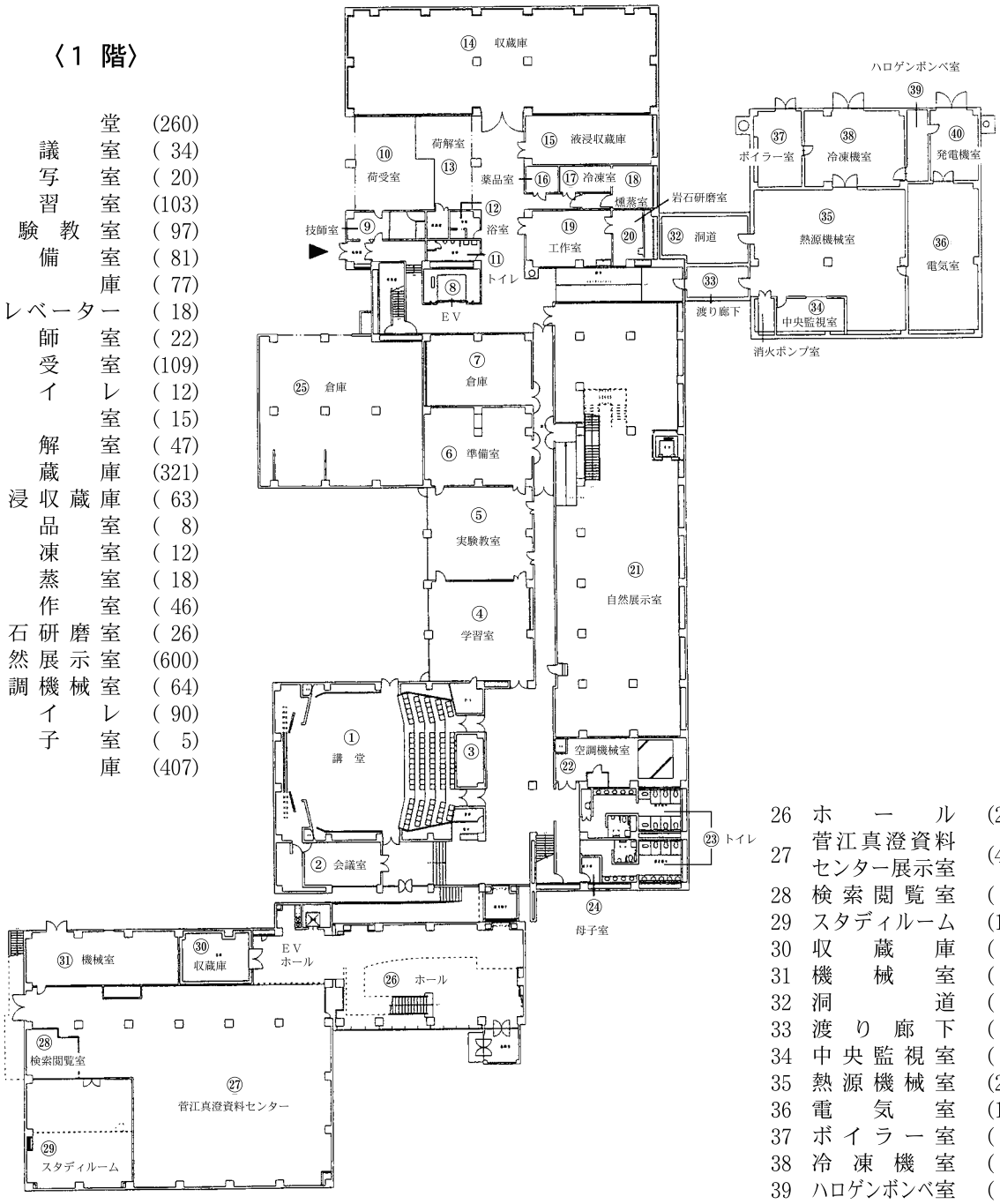
区　　分	11年度	13年度	継　続　費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	－	－	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	－	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

－各階平面図－

（　）内の数字は面積（単位㎡）

〈1 階〉

1	講堂	(260)
2	会議室	(34)
3	映写室	(20)
4	学習室	(103)
5	実験教室	(97)
6	準備室	(81)
7	倉庫	(77)
8	エレベーター	(18)
9	技師室	(22)
10	荷受室	(109)
11	トイレ	(12)
12	浴室	(15)
13	荷解室	(47)
14	収蔵庫	(321)
15	液浸収蔵庫	(63)
16	薬品室	(8)
17	冷凍室	(12)
18	燻蒸室	(18)
19	工作室	(46)
20	岩石研磨室	(26)
21	自然展示室	(600)
22	空調機械室	(64)
23	トイレ	(90)
24	母子室	(5)
25	倉庫	(407)



26	ホール	(242)
27	菅江真澄資料センター展示室	(464)
28	検索閲覧室	(23)
29	スタディルーム	(113)
30	収蔵庫	(40)
31	機械室	(83)
32	洞道	(42)
33	渡り廊下	(25)
34	中央監視室	(23)
35	熱源機械室	(206)
36	電気室	(110)
37	ボイラー室	(41)
38	冷凍機室	(73)
39	ハロゲンボンベ室	(16)
40	発電機室	(36)

部門別床面積(㎡)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

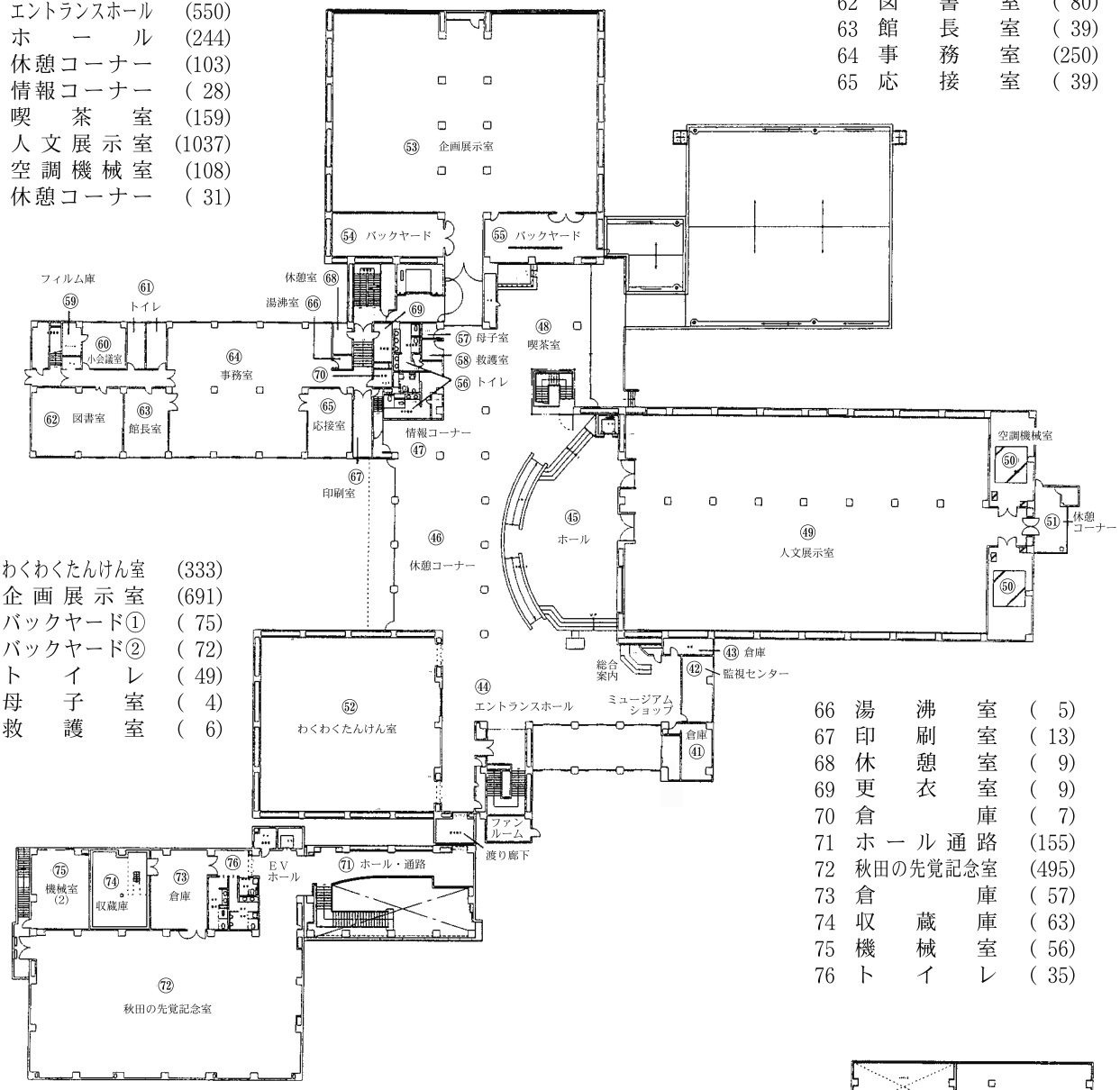
階別面積(㎡)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2 階〉

41 倉　　庫 (23)
42 監視センター (25)
43 倉　　庫 (14)
44 エントランスホール (550)
45 ホ　ー　ル (244)
46 休憩コーナー (103)
47 情報コーナー (28)
48 喫　茶　室 (159)
49 人文展示室 (1037)
50 空調機械室 (108)
51 休憩コーナー (31)

59 フィルム庫 (9)
60 小会議室 (26)
61 ト　イ　レ (29)
62 図　書　室 (80)
63 館　長　室 (39)
64 事　務　室 (250)
65 応　接　室 (39)



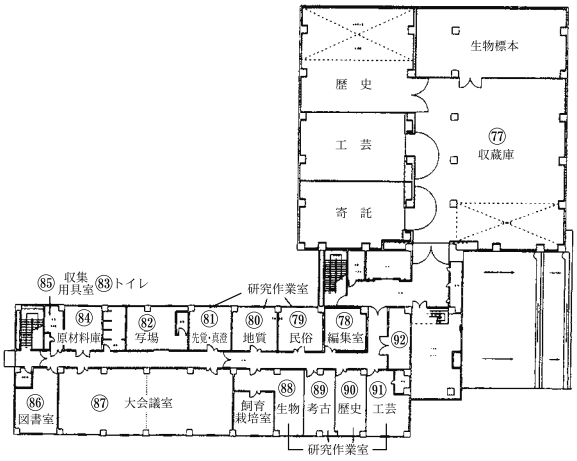
52 わくわくたんけん室 (333)
53 企画展示室 (691)
54 バックヤード① (75)
55 バックヤード② (72)
56 ト　イ　レ (49)
57 母　子　室 (4)
58 救　護　室 (6)

66 湯　沸　室 (5)
67 印　刷　室 (13)
68 休　憩　室 (9)
69 更　衣　室 (9)
70 倉　　庫 (7)
71 ホール通路 (155)
72 秋田の先覚記念室 (495)
73 倉　　庫 (57)
74 収　蔵　庫 (63)
75 機　械　室 (56)
76 ト　イ　レ (35)

〈3 階〉

77 収　蔵　庫 (840)
78 編　集　室 (27)
79 研究作業室(民俗) (28)
80 〃 (地質) (28)
81 〃(先覚・真澄) (27)
82 写場・暗室 (38)
83 ト　イ　レ (15)
84 原材料庫 (24)

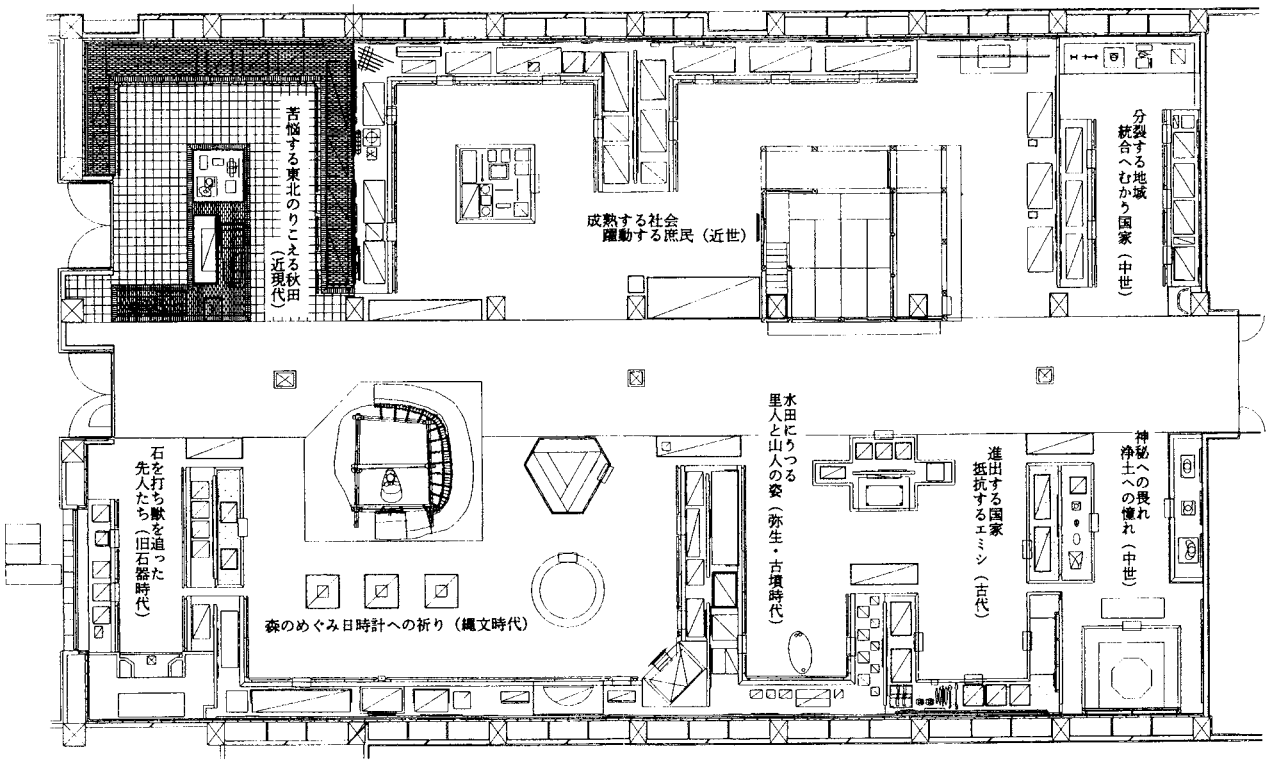
85 収集用具室 (10)
86 図　書　室 (34)
87 大会議室 (158)
88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
89 研究作業室(考古) (27)
90 〃 (歴史) (27)
91 〃 (工芸) (39)
92 倉　　庫 (19)



Ⅲ 展　示　室

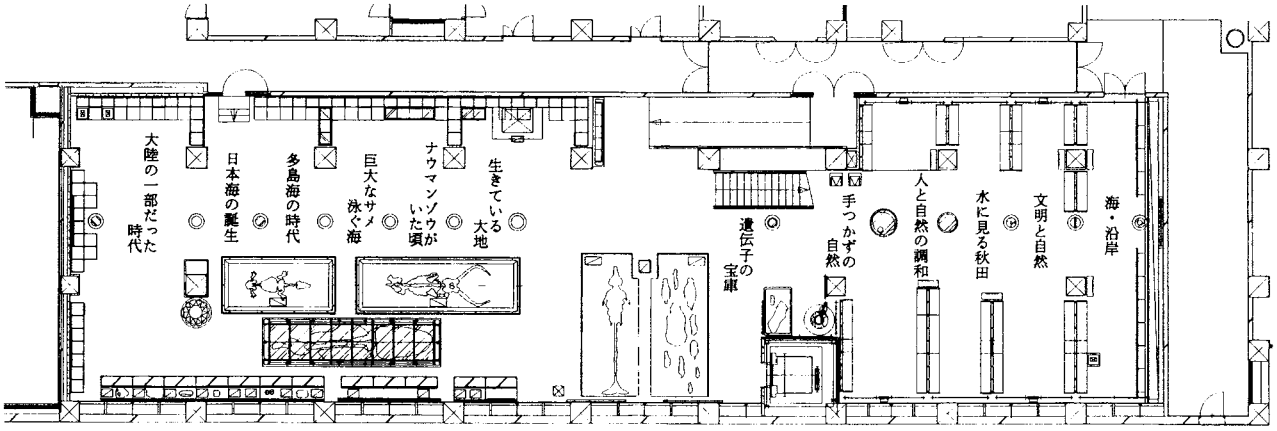
◇人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気のなかで自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

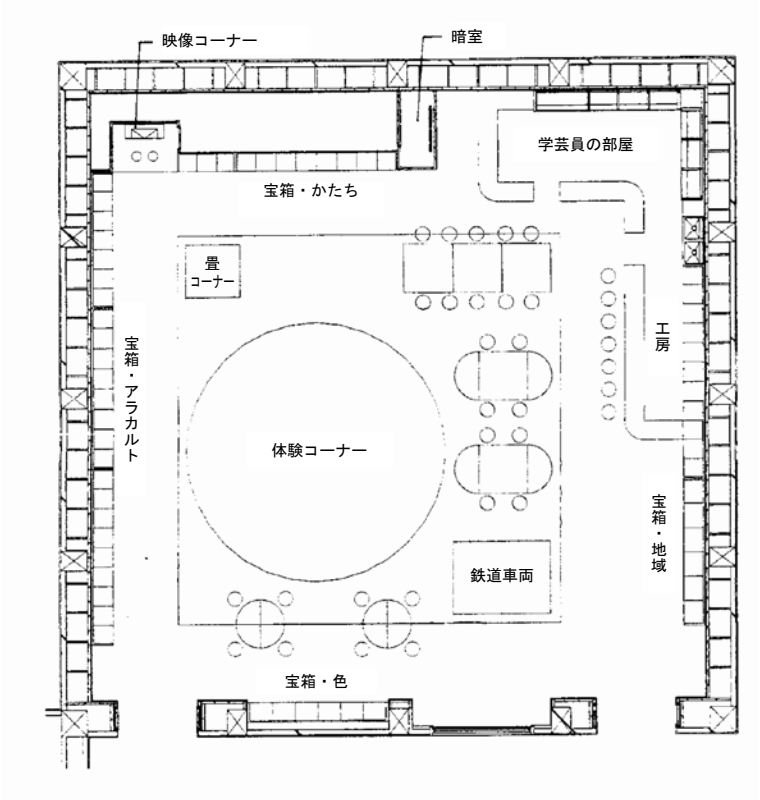


◇自然展示室

「いのちの詩」（生物）・「大地の記憶」（地質）の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。

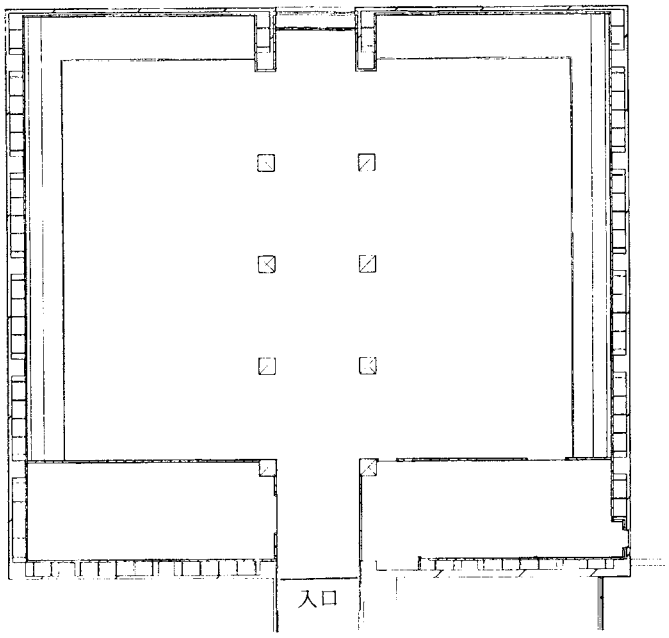


◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。

◆ 企 画 展 示 室

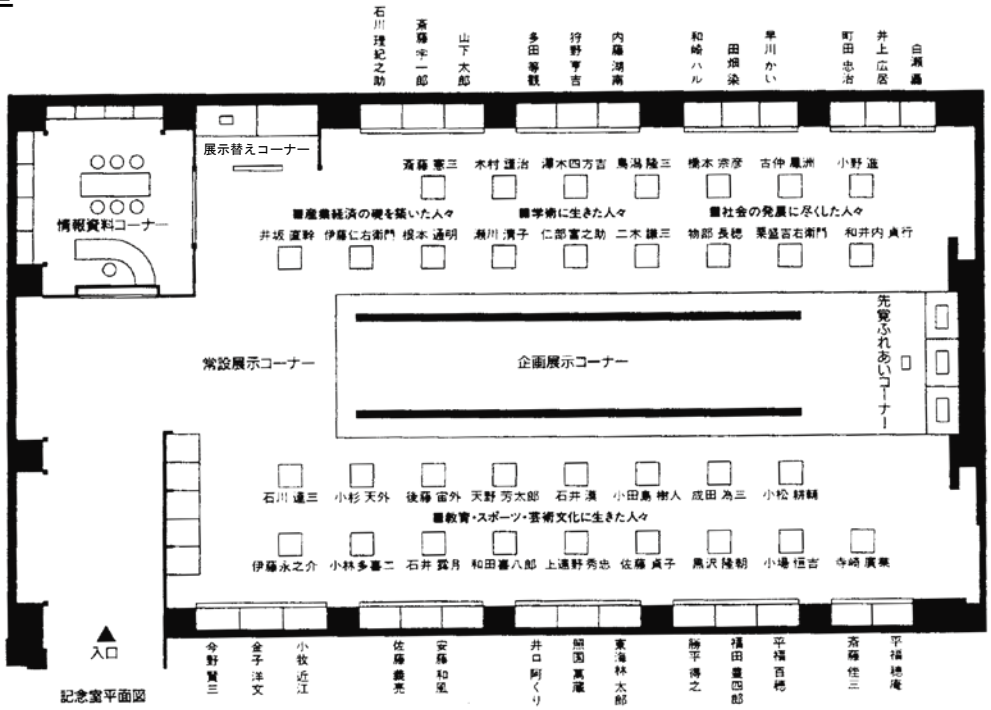


従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。

◇ 秋田の先覚記念室

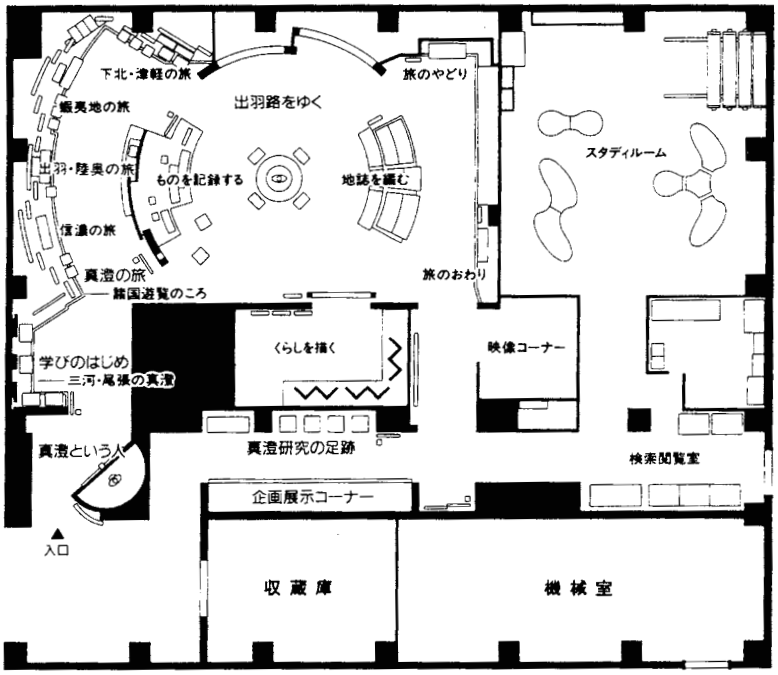
近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



記念室平面図

◇ 菅江真澄資料センター



資料センター平面図

江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディルーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

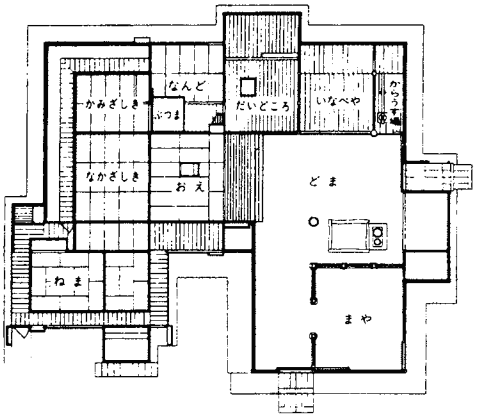
◆ 分館・旧奈良家住宅

所　　在　　地　　秋田市金足小泉字上前８　　電話 018（873）5009
旧　所　有　者　　奈良恭三郎（昭和44年５月寄贈）
昭和40年５月29日　重要文化財（建築面積　459.08㎡）

旧奈良家住宅はＪＲ東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から１kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

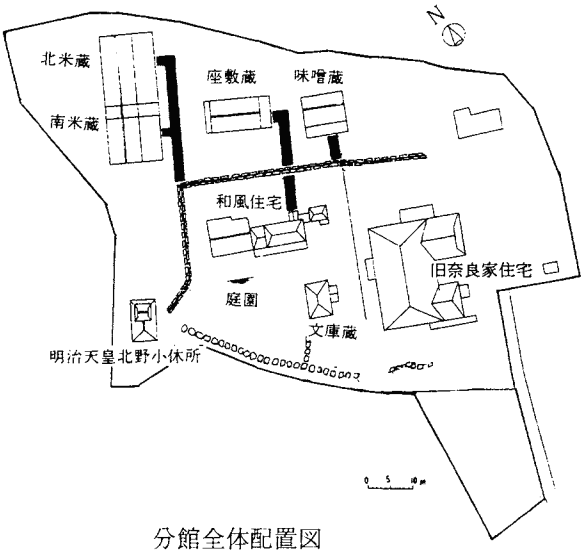
昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）９代喜兵衛が銀70貫と３年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

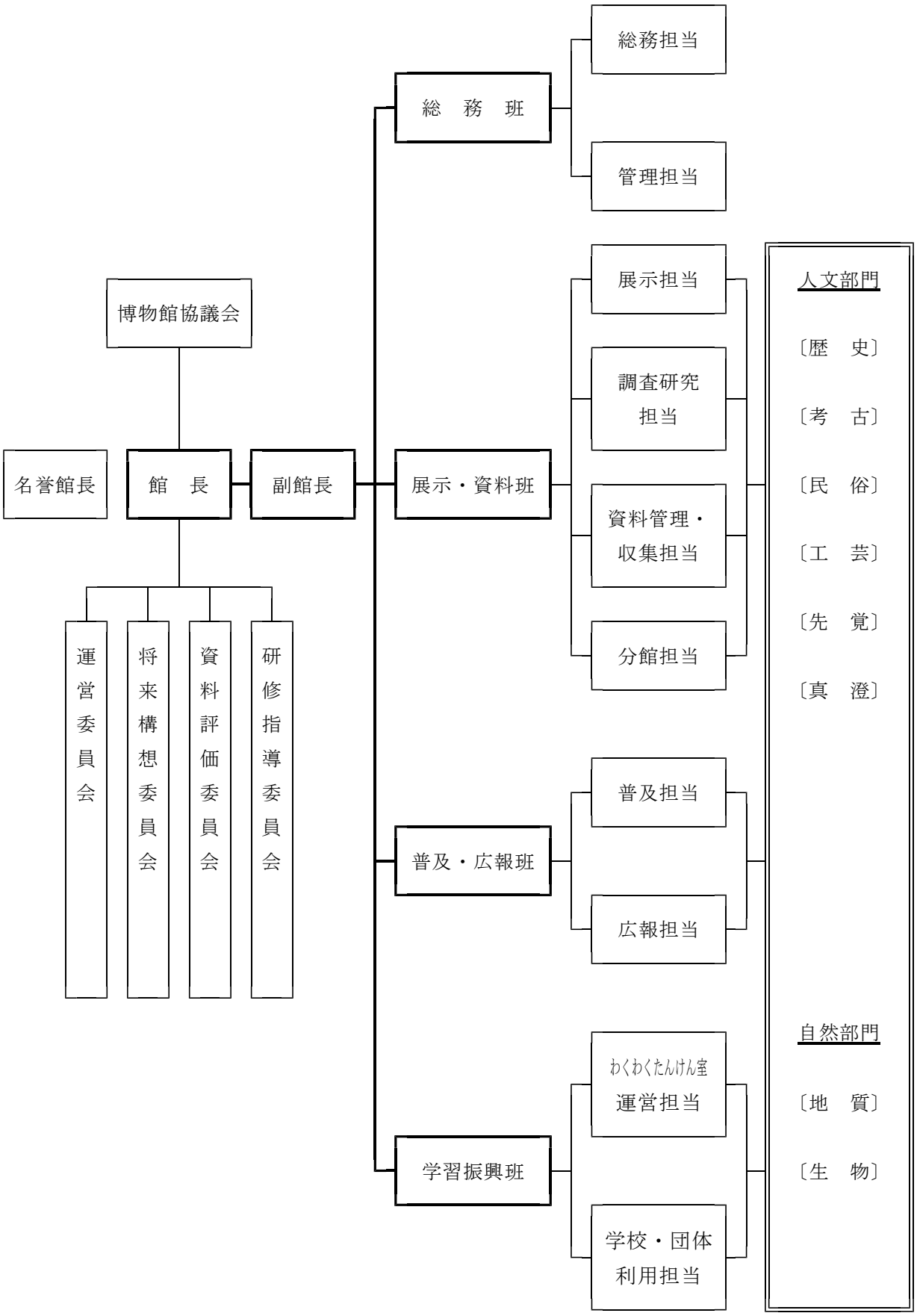
敷地内にある附属屋は平成18年３月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治７年に建造された、土蔵造の建物
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物
米　蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造
明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物
文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

Ⅳ　組　　織


総務担当
総　務　班
管理担当
展示担当
博物館協議会
調査研究担当
人文部門
〔歴　史〕
名誉館長
館　長
副館長
展示・資料班
資料管理・収集担当
〔考　古〕
〔民　俗〕
〔工　芸〕
〔先　覚〕
〔真　澄〕
分館担当
運営委員会
将来構想委員会
資料評価委員会
研修指導委員会
普及担当
普及・広報班
広報担当
自然部門
わくわくたんけん室運営担当
〔地　質〕
学習振興班
〔生　物〕
学校・団体利用担当

Ⅴ　職　　員

班名	職　名	氏　名	各班の分掌と部門担当
	館　長	髙橋　正	総括
	副館長	柿崎仁志	館長の補佐
総務班	副主幹（兼）班長	児玉弥生子	班の総括、危機管理に関すること
	副主幹	柿崎　幸	服務、給与に関すること、歳入予算に関すること
	主　事	佐藤麗美奈	管理、営繕に関すること、歳出予算に関すること
	技能主任	武田光彦	空調設備運転に関すること、施設設備管理に関すること
	技能主任	佐藤彰洋	公用車運転に関すること、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事（兼）班長	山本丈志	班の総括、工芸部門に関すること
	副主幹	新堀道生	歴史部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること
	副主幹	丸谷仁美	民俗部門に関すること、展示企画・調査研究に関すること
	主査（兼）学芸主事	松山　修	真澄部門に関すること、資料管理・展示企画に関すること
	主査（兼）学芸主事	渡部　均	地質部門に関すること、資料管理・展示企画に関すること
	学芸主事	安田ゆきこ	考古部門に関すること、調査研究・資料管理に関すること
普及・広報班	主任学芸主事（兼）班長	藤原尚彦	班の総括、工芸部門に関すること
	副主幹	加藤　竜	考古部門に関すること、教育普及に関すること
	学芸主事	山田徳道	考古部門に関すること、広報に関すること
	学芸主事	深浦真人	民俗部門に関すること、広報に関すること
	学芸主事	黒川陽介	歴史部門に関すること、教育普及に関すること
	学芸主事	斉藤洋子	工芸部門に関すること、教育普及に関すること
学習振興班	主任学芸主事（兼）班長	池端広樹	班の総括、生物部門に関すること
	副主幹	三浦たみ子	先覚部門に関すること、わくわくたんけん室運営に関すること
	主査（兼）学芸主事	大森　浩	地質部門に関すること、学校利用支援に関すること
	学芸主事	藤中由美	生物部門に関すること、学校団体利用に関すること
	学芸主事	角崎　大	真澄部門に関すること、学校団体利用に関すること

［会計年度任用職員］

畑澤俊視（ボイラー）
三浦信一（　同　）
黒沢清直（守　衛）
石黒　司（　同　）
鈴木　博（　同　）
最上武元（　同　）
虻川政法（工　作）
加賀谷洋子（展示解説・案内）
小林純子（　同　）
佐藤里美（　同　）
関谷百世（　同　）
工藤奈緒（　同　）
吉田一枝（　同　）
廣嶋綾子（　同　）
三浦由華子（　同　）
嵯峨彩子（学芸補助）
佐々木由衣（　同　）
藤井千里（　同　）
唐津谷浩生（　同　）

事業の概要

Ⅰ　令和２年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

1　本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。

2　県民のニーズに応える博物館活動の在り方を追求する。

3　郷土秋田の自然や文化、歴史等に親しむことができる環境整備を図る。

4　県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、教育機関、ボランティア団体等との連携を図る。

Ⅱ　令和２年度博物館事業計画

1　重点目標

（1）　博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。

ア　県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。

イ　調査研究の成果を広く一般に公開する。

（2）　県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。

ア　長期的展望に立ち、計画的に資料を収集・整理・保存する。

イ　収蔵及び展示資料のデジタルデータ化を推進し、効果的な活用を進める。

（3）　驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。

ア　県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。

イ　来館者の声を活かし、県民目線にたち、他の機関とも連携した展示活動を実施する。

（4）　博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。

ア　博物館教室、展示関連事業などにより、普及活動の充実を図る。

イ　諸機関との連携講座や出前講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。

（5）　郷土に親しみと愛着がもてるような博物館活動の広報を行う。

ア　印刷物やホームページ、ＳＮＳなどさまざまな媒体を用いて博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。

（6）　博物館利用の支援や促進に努め、県民の生涯学習の充実に資する。

ア　体験活動の充実を図る等、親しみやすい博物館運営に努める。

イ　内容や広報の充実を図ることで、学校団体によるセカンドスクール的利用を促す。

2　活動計画

調査研究

◇部門研究

・歴史　佐竹氏関連資料の調査
　　大坂の役に関する館蔵資料の調査
・考古　『蓑虫山人画記行』掲載の考古資料について
　　秋田県内の遺跡から出土した縄文時代の土製耳飾
・民俗　収蔵資料の調査
　　秋田県の高校野球史
・工芸　秋田県内におけるケラおよびミノボッチの製作技術
　　収蔵美術品の悉皆調査
　　編組品にみる地域性の研究
・先覚　農民文学の作家　伊藤永之介
・真澄　内田武志真澄研究資料の整理と展示公開
　　真澄が記録したお酒に関連する内容についての整理と展示公開
・地質　秋田県内の岩石調査～地層中のコンクリューションについて～
　　県内ジオパークの調査と企画展への生かし方
・生物　森林生態系における生物資源調査について
　　秋田県に生息する蟻類の種類と環境調査

◇共同研究、博物館学的研究

・携帯端末用展示情報提供システムの構築　－アプリ『アキハクなび』の開発－

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料データベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業

・収蔵庫　◎燻蒸期間　８月24日(月)～31日(月)

展示

◇展示活動

・企画展示室における企画展・特別展
　企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開」
　　４月25日(土)～６月21日(日)
　企画展「蓑虫山人－秋田を歩いた漂泊画人－」
　　７月11日(土)～８月23日(日)
　特別展「美の極致－縄文と江戸－」
　　９月19日(土)～11月１日(日)
　企画展「秋田の石っころ」
　　11月21日(土)～令和３年４月４日(日)
・菅江真澄資料センター企画コーナー展
　「真澄酒物語－真澄と酒を巡る話－」
　　７月18日(土)～９月６日(日)
　「真澄研究者内田武志の新資料」
　　10月17日(土)～12月６日(日)
　「おらほの真澄　－能代・山本－」
　　令和３年３月20日(土)～５月16日(日)
・秋田の先覚記念室企画コーナー展
　「農民文学の作家　伊藤永之介」
　　９月26日(土)～11月29日(日)
・ふるさとまつり広場
　土人形　４月17日(金)～５月12日(火)
　鹿島船　５月22日(金)～６月23日(火)
　涼を求めて　７月３日(金)～８月21日(金)
　ショウキサマ　10月２日(金)～11月17日(火)
　正月儀礼　12月４日(金)～令和３年１月13日(水)
　ひな人形・押絵　２月19日(金)～４月６日(火)
・常設展示室における可変展示
・他施設との連携展示
　秋田県立図書館
　「明治の広告デザイン・くせになる引札の魅力」
　　４月４日(土)～５月26日(火)
　大館市立栗盛記念図書館
　「真崎コレクション展、秋田に謳う」
　　10月31日(土)～11月８日(日)

教育普及

◇博物館教室・講演会

（１）化石と地質の観察会　５月24日(日)、５月31日(日)
（２）昆虫教室－採集と標本づくり－
７月19日(日)、８月16日(日)
（３）夜の昆虫観察会　７月25日(土)
（４）くん製教室　初級編　９月13日(日)
（５）アリの観察会－観察して採集して種類をしらべてみよう！－　９月20日(日)
（６）「真澄に学ぶ教室」講話会
－真澄展覧会、18の視点を聞く－
５月２日(土)、５月16日(土)、６月13日(土)
（７）初めての古文書解読
５月14日、５月21日、５月28日、６月４日、６月11日、６月18日(いずれも木曜日)
（８）中学生・高校生対象　史料で学ぶ秋田の歴史
７月19日(日)、８月９日(日)
（９）「真澄に学ぶ教室」講読会－県外の日記を読む－
９月26日、10月24日、11月28日、12月26日、１月23日、２月27日、３月27日
(いずれも土曜日)
(10) 土器作り教室　９月27日(日)、10月25日(日)
(11) 三浦館と旧奈良家住宅の見学会　９月30日(水)
(12) 地域回想法－60年前の秋田、脳を若く保つには－
10月10日(土)
(13) 旧奈良家住宅で昔語り　10月11日(日)
(14) 拓本体験教室　10月24日(土)
(15) 土製耳かざり作り　11月21日(土)、11月28日(土)
(16) 和装本を造ろう　12月19日(土)
(17) 秋田の先覚者　２月６日(土)
(18) 民俗学入門講座　２月21日(日)、２月28日(日)
(19) 初めての藍の絞り染め
５月30日(土)、６月17日(水)、６月18日(木)、６月19日(金)、６月20日(土)、７月18日(土)、８月５日(水)、８月６日(木)、８月７日(金)、８月８日(土)
(20) 糸を紡ぐ　６月６日(土)、７月９日(木)、10月16日(金)、10月17日(土)、12月12日(土)
(21) 木工芸　木のオブジェづくり　７月26日(日)
(22) ゼロから始めるワラ仕事
11月18日(水)、11月25日(水)、12月２日(水)
(23) 木工芸　Christmas Ornament　12月６日(日)
(24) ミニコダシを編む～男鹿に伝わるトジナの技法～
３月４日(木)
(25) 未来の学芸員養成講座
８月１日(土)、８月２日(日)
(26) 真澄に学ぶ教室：講話会
「真澄を追った旅の思い出」　５月24日(日)
(27) 真澄に学ぶ教室：講演会
「菅江真澄遊覧記、その価値と魅力」６月７日(日)
(28) 秋田の先覚記念室講演会　11月１日(日)

◇名誉館長館話

（１）「鳥海山」
①鳥海山と海みち　５月15日(金)
②鳥海山の祭神　６月12日(金)
③鳥海山の山号　７月10日(金)
（２）「秋田の先覚」
①根本通明　９月４日(金)
②イザベラ・バード　10月２日(金)

◇イベント

（１）「軒の山吹」再現　４月末～５月初
（２）ミュージアム･コンサート　令和３年３月

◇ミュージアム･トーク

◇展示付帯事業

◇館外講座

（１）出前講座(県庁出前講座)
（２）出張講座
（３）出前授業
（４）連携講座
（５）その他

◇県内外の博物館等類似施設との連携

（１）日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
（２）秋田県博物館等連絡協議会
（３）秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

（１）博物館実務実習(大学)
（２）中堅教諭等資質向上研修
（３）教育センターと連携した研修

広報・出版

◇広報活動

・事業に関する広報計画の策定と実施
　展示・イベント広報
　配布・発送計画
・その他の広報活動の実施と改善
　ホームページ、フェイスブックページの充実
　プレスリリースの充実
　広報資料、出版物等の管理
　館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布

・年報　令和２年度　　Ａ４判　45頁　　1,000部
・博物館ニュース№171・172
　　Ａ４判　８頁　各2,300部
・秋田県立博物館研究報告第46号
　　Ａ４判　90頁　600部
・広報紙「真澄」№38　　Ａ４判　８頁　1,500部
・真澄研究第25号　　Ａ５判　100頁　500部
・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料
　　Ａ４判　８頁　1,000部
・展示ポスター、広報チラシ
　企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開」
　企画展「蓑虫山人－秋田を歩いた漂泊画人－」
　特別展「美の極致－縄文と江戸－」
　企画展「秋田の石っころ」

学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

・一般及び団体利用の促進
・展示室との連携と企画運営
・季節イベントや季節アイテムの計画立案
・体験アイテムの保守管理
・消耗品の補充管理
・博物館ボランティアとの連携
・出張わくわくたんけん室の企画運営
・新アイテムの開発

◇学校団体の利用促進

・学校団体のセカンドスクール的利用の促進
・出前授業の広報及び利用の促進
・学校団体利用の集計及び報告
・学校利用の分析

◇その他、教育的支援

・職場体験とインターンシップ、ボランティア活動の受け入れ
・「教員のための博物館の日」の計画と実施
・教員長期社会体験研修の受け入れ
・大学との地域連携

分館・重要文化財旧奈良家住宅

主屋（重要文化財）を令和２年４月１日(水)から令和３年３月31日(水)まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開の希望に応えるために令和２年９月30日(水)に公開し学芸職員が解説を行うほか、昔語りの会を開催するなど、適宜公開する機会を設ける予定である。

Ⅲ　2019年度事業報告

1　調査研究活動

部門研究は、特別展・企画展実施に向けた調査が多かった。いくつかの研究成果は特別展・企画展への反映という形で公開された。

「研究報告第45号」には、６件の報告、翻刻等が掲載された。「真澄研究24号」には講演記録、資料紹介など４件が掲載された。

例年行っている調査研究報告会は、館内報告会を１月27日に行ったが、３月15日に予定されていた秋田県生涯学習センターでの一般公開の報告会は新型コロナウイルス対策のため中止となった。

部門研究

◇考古

（１）「秋田県の木組井戸」　山田徳道

秋田県の古代・中世には井戸側が方形の木組井戸や、井戸側内に水溜部の井筒として曲物を埋設している井戸が散見される。木組井戸は、主に隅柱、横桟、縦板（横板）などで構成され、遺跡間で木材の利用や部材の組み方に違いが認められることから、遺跡の性格や地域環境等を比較検討することにより、県内の井戸の特徴を調査した。

（２）「蓑虫山人画記行にみる考古資料の表現について」　加藤　竜

令和２年度の企画展「蓑虫山人－秋田を歩いた漂泊画人－」に向け、「蓑虫山人画記行」に掲載された考古資料の図や拓本と、館蔵の実物資料を比較し、その表現方法について検討した。また、東北遍歴の前半期、青森県下を描いた「蓑虫山人写画」掲載図とも比較を行った。東北遍歴の後半期にあたる「蓑虫山人画記行」では、同一サイズを意識した描き方、拓本の多用が認められ、より客観的な表現方法に偏重する傾向が窺われた。調査内容については、館内調査研究報告会で発表した。

◇歴史

（１）「江戸・明治前期における秋田の海運資料の調査」　新堀道生

館蔵「歳々入船帳」の2655艘１冊分の入力を終えた。それをもとに秋田来航船の船籍地、その履歴、時期的な変遷を検討し、その成果を企画展「北前船と秋田」で活用した。館外資料の調査では、特に田沼家の廻船関係文書と、近代の能代廻船の船主の回顧録に遭遇したのは幸運であった。具体的な船舶の活動事例として貴重である。今後は廻船の航跡資料、鰊荷の流通資料の捜索、北海道漁業出稼ぎとの関係の検討などが課題となる。

（２）「郷土資料を活用した高等学校「日本史探究」の授業－新学習指導要領の実施にむけて－」　黒川陽介

2022年度から高等学校の新学習指導要領が年次進行で実施される。地理歴史科では科目構成が大幅に改正されると共に、資料を活用する学習活動が一層重視され、また博物館等の積極的活用も引き続き強調されている。そこで新科目「日本史探究」を取り上げ、中世と近世の単元において、複製館蔵の「将軍家政所下文」と館蔵の「出羽国秋田城絵図」をそれぞれ活用した2つの授業案を作成してみた。

◇民俗

（１）「1964年の東京オリンピックを支えた秋田県人」　深浦真人

特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」を担当するにあたって、1964年の新聞記事を調査した。その中で、多くの秋田県人が、1964年の東京オリンピックに関わっていたことがわかった。県出身の選手が15名出場し、６名がメダルを獲得した。また、競技役員や選手村で選手の活動を支えた人等。中でも、大会役員として活動した(組織委員会国旗担当専門職員だった秋田市出身の吹浦忠正氏や陸上競技男子100m決勝のスターターを務めた小坂町出身の佐々木吉蔵)について調査した。

（２）「太平山信仰の広がりについて」　丸谷仁美

企画展「山と生きる－太平山の信仰と人々のくらし－」にあたり、太平山信仰の広がりについて調査を行った。秋田市広面赤沼の太平山三吉神社の協力を得、文書や縁起類の調査を行った。それによると、太平山信仰は江戸時代の終わりから東北地方を中心に信仰が拡大し、明治時代になると北海道からも多くの参詣者を集めるようになったことが分かり、神社縁起も時代によって変化していったことが分かった。

◇工芸

（1）「収蔵美術品の悉皆調査」　山本丈志

県立近代美術館の新設にともない近世近代の美術部門の収蔵品は美術館へ移管されたが、収蔵庫には未だ美術関係の絵画資料等が保管されている。しかし、美術の担当者が不在のため、長年手がつけられてこなかった。収蔵資料の保存管理の上で現状の把握は必要であり、早々に確認作業をしておくべきと考え悉皆調査を行った。

収蔵資料が他部門の展示・調査で使用された経緯があり、収蔵場所が特定されないものが散見された。近代美術館へ移管されているはずの資料が博物館に残されている事例もあり、所在確認、登録台帳・基本カードへの記入など整理作業を続ける必要がある。

（2）「秋田県内におけるケラの製作技術」　藤原尚彦

ワラ細工については、履物類を皮切りに調査を始め、現在は対象を被服類へと移し、中でもワラを含め様々な素材で作られているケラの製作技術に焦点を当てた調査を実施している。

今年度は、羽後町、東成瀬村、秋田市河辺・雄和の４館を調査し、これまで調査した計187点の資料から特に作り始めとなる首回り縁部分に見られる技術や大きく二種類に分類される裏面のつくりなどを中心に現時点での調査内容をまとめることができた。

（3）「江戸時代初期の小袖にみる意匠」　斉藤洋子

江戸時代の小袖は日本服飾史の中で最も華やかな展開を見せた時期であり、その服飾の変遷を意匠や技術の視点から整理した。令和２年度特別展において借用予定の「舞踊図」（サントリー美術館蔵）、小袖（女子美術大学美術館蔵）について、文様や意匠の解析を行ったところ、同時代に制作された雛形本の意匠と類似する点が多くあった。

◇生物

（1）「秋田県産メムシガ属の標本収集とリスト作成」　梅津一史

これまでに採集した標本について、詳細に再検討を行い、10種が同定できたほか、不明種が３種見いだされた。これまでの県内の文献上の記録は５種だったので倍以上になった。検討の中で、本属に関する過去の分類学的研究に問題がある部分が見いだされた。

（2）「秋田県立小泉潟公園に生息するアリ類」　藤中由美

秋田県におけるアリ類の研究報告は少なく、多くの種で生息が確認されていない。秋田県のアリ相を解明する第一段階として、秋田県立小泉潟公園を調査地に選定しアリ類の採集を行い、604個体について実体顕微鏡で同定を行った。その結果、本県初記録と思われるキイロカドフシアリを含む29種が得られた。約６か月間の採集で得られた県立小泉潟公園に生息するアリ類について報告した。

◇地質

（1）「棘皮動物の同定に向けて」　池端広樹

秋田県男鹿市五里合地区の安田海岸からは多くの貝化石が見つかっているが、その中には貝類以外の微細な化石も含まれている。これらの貝化石と同年代には棘皮動物も生息することから比較対照するため、現生ウニの乾燥標本づくりを行った。生物資料については、県水産振興センターの中林氏に協力いただいた。作成したバフンウニやムラサキウニの乾燥標本は、化石の同定資料として資料登録を行うことができた。

（2）「男鹿半島の化石の調査・研究」　佐々木真樹

男鹿半島の安田海岸の化石の調査・研究を実施した。その露頭にある鮪川層、安田層、潟西層の三つの主な地層の観察を行った。そして、産出される二枚貝の中から、食材として知られる身近なホタテ貝を含むイタヤガイ科の化石に注目し、同定した。また、各地層の基底部、中部、上部の各層位のイタヤガイ科の化石の層位的な分布の調査から、ホタテガイ、トウキョウホタテガイ、イタヤガイの分布状況とその推移より、当時の生息環境を予想し、気候や海流の流れなどの変化について、考察していくことの課題をつかむことができた。

◇秋田の先覚記念室

（1）「出版創業者の先覚者に関する調査」　三浦たみ子

秋田の先覚者のうち、出版社を創業した、佐藤義亮（新潮社）、福岡易之助（白水社）、町田忠治（東洋経済新報社）の３人に関する調査を行った。評伝、社史、研究文献等で経歴、事績、人物像の把握を行い、また仙北市立新潮社記念文学館、横手市立雄物川図書館、個人宅へ赴き、資料調査を行った。調査の成果の一部は博物館教室の講義にて利用者へ紹介することができた。企画コーナー展示の規模は難しいが、展示替えコーナー展示等で紹介することを検討している。

（2）「斎藤宇一郎と斎藤憲三」　平田有宏

羽後交通株式会社、ＴＤＫ歴史みらい館、斎藤宇一郎記念会、フェライト子ども科学館、白瀬南極探検隊記念館、雄物川郷土資料館、県公文書館、県立図書館の各

施設において、斎藤宇一郎・憲三関係資料の調査を行った。特に白瀬南極探検隊記念館蔵の白瀬矗宛宇一郎書簡・はがきは両者の交流を深く知ることができる貴重なものであることが分かった。以上の調査を踏まえて、各施設から資料を借用し、企画コーナー展を実施した。

◇菅江真澄資料センター

（1）「鳥屋長秋に関する調査」　松山　修

鳥屋長秋は、菅江真澄と親しく交流した人物である。藩校明徳館和学方で教えたことなどから、国学者として位置づけられているが、その著作を含めて資料がまとまって紹介されたことはない。当館内田文庫には、内田武志が昭和24年に発表した「真澄翁交遊録　鳥屋長秋」の掲載誌のほか、未掲載の原稿がある。これを翻刻して、記載内容について考察するとともに、記載資料の現在時点での所在等を明らかにした。また、現在知られている遺墨資料について翻刻をおこなった。

（2）「真澄の書簡について」　角崎　大

菅江真澄の人物像について、真澄自筆の書簡資料を根拠としたアプローチを試みた。真澄は日記や地誌の中に、自身の心情を直接的に書くことはほとんどなかった。一方、親しい人に宛てた書簡からは、真澄の素直な心情を感じ取ることができる。例えば、秋田藩士、高階貞房に宛てた書簡には自身が長年、苦労しながら書き上げた地誌に対して、誰も良いとも悪いとも反応を示してくれないことへの不平･不満を述べている。また保呂羽山波宇志別神社（現横手市大森町）の社家、大友家の嫡子、大友直枝へ宛てた書簡からは、眼病を患う直枝を気遣う心根の優しい真澄の姿や、自身が直枝へ贈った書の出来栄えに満足できず、書き直させてほしい旨を伝える生真面目な真澄の姿が垣間見えた。

◇共同研究

（1）「男鹿市寒風山の火入れ地の植生」　梅津一史

火入れ地を含めた寒風山の植生や昆虫相については、これまでも博物館として標本や情報を収集してきたところである。今年度は、これまで同地で火入れ実験や植生調査を行ってきた岐阜大学津田研究室との共同研究という形をとり、植物相のとりまとめを行い、秋田県立博物館研究報告で報告した。

◇博物館学的研究

（1）当館「出前授業」「出張わくわくたんけん室」の認知度調査～県内の特別支援学校の教員を対象として～　安田ゆきこ

当館職員が学校や屋外に出向いて提供する「出前授業」「出張わくわくたんけん室」を広く知っていただくきっかけづくりとして、県内の特別支援学校の教員を対象にアンケートで認知度調査を行った。過去５年間、特別支援学校での利用はなかったが、アンケート実施後「出前授業」２件の利用があった。この調査がきっかけとは言い切れないが、今後利用が増えていくことに期待したい。

（2）当館への外国人来館者数（団体含む）と案内・解説の現状調査　安田ゆきこ

来館された外国の方々へ秋田の魅力を発信するための基礎的調査として、外国人来館者数（2014年度～今年度12月現在）の把握と案内・解説の現状について、来館者対応をする解説員・学芸補助への聞き取りとアンケート調査を行った。いくつか課題が出てきたが、それらを受けて実際の場面に応じた案内・解説の各種マニュアル（主に英語）を作成中である。

調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を令和２年１月27日(月)に本館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。

1　当館への外国人来館者数（団体含む）と案内・解説の現状調査　安田ゆきこ
2　男鹿半島の化石の調査・研究　佐々木真樹
3　1964年の東京オリンピックを支えた秋田県人　深浦真人
4　秋田県立小泉潟公園に生息するアリ類　藤中由美
5　秋田県の木組井戸　山田徳道
6　江戸時代前期の小袖～意匠とデザイン～　斉藤洋子
7　棘皮動物の同定に向けて　池端広樹
8　寺社縁起の変遷―太平山三吉神社の縁起から―　丸谷仁美
9　秋田県産メムシガ属蛾類の知見　梅津一史
10　美術関係資料の悉皆調査　山本丈志
11　蓑虫山人の作品にみる考古資料の表現について　加藤　竜
12　秋田県内におけるケラの製作技術　藤原尚彦
13　出版社を立ち上げた先覚者たち～佐藤義亮・福岡易之助・町田忠治～　三浦たみ子
14　真澄の書簡について　角崎　大
15　郷土資料を活用した高等学校「日本史探究」の授業－新学習指導要領の実施にむけて－　黒川陽介

16　斎藤宇一郎と白瀬矗　　平田有宏
17　企画コーナー展「湯沢・雄勝を記録する」の展示報告　　松山　修
18　「歳々入船帳」にみる秋田の廻船　　新堀道生

◇調査研究報告会（公開報告会）
標記の会を令和２年３月15日(日)に生涯学習センター３階講堂にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止となった。報告の概要を当館ＨＰに掲載した。掲載期間は令和２年４月30日(木)まで。

研究報告等の発行

◇『研究報告』第45号
・男鹿半島寒風山における植物相
津田智・増井太樹・長尾彩加・津田美子・梅津一史
・雄物川及び子吉川の「河川水辺の国勢調査」で確認された半翅目、撚翅目及び双翅目の稀少種
梅津一史・国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所・町田禎之
・秋田県男鹿半島安田付近の更新統鮪川層・潟西層から得られたウニ（正形類）のアリストテレスのランタン化石　　渡部　晟・池端広樹
・名誉館長館話実施報告抄　　新野直吉
・寺社縁起の変遷－太平山三吉神社の縁起から－
丸谷仁美・嵯峨彩子
・［翻刻］茂木久栄家資料「日記帳」（慶応２年）
新堀道生・秋田古文書同好会

◇『真澄研究』第24号
・講演記録　男鹿に生きるナマハゲたち～菅江真澄の記録と最近のナマハゲ事情～　　天野荘平
・資料紹介　内田武志・未定稿「真澄翁交遊録　鳥屋長秋」
・鳥屋長秋遺墨資料の翻刻　　松山　修
・現代語訳《しののはぐさ》　　嵯峨彩子

2　資料収集管理活動

2019年度中に寄付等で新たに登録された資料は27件4,453点であった。多数の植物標本の寄贈があったため点数が多くなった。

収蔵庫内の一部床面に、黒カビらしい汚れが認められ、結露に起因するものと推測された。棚の陰のような目に付きにくい場所でかなりの年数を経ているとみられるものもあった。拭き取り・アルコール殺菌を行い、棚を移動して空気の循環を改善するなどの対策を進めている。

資料収集・整理・保存・管理

◇2019年度収集資料一覧

部門	資　料　名	数量	受入区分
歴史	男女人形、和本	2	寄付
	馬橇鑑札　他	3	寄付
	田沼家文書	8	寄付
民俗	カメラ　他	13	寄付
	八橋人形	8	寄付
	景品鉛筆　他	7	寄付
	絵葉書	11	寄付
	牛乗り天神　他	19	寄付
	振り袖　他	3	寄付
	熊の胆　他	4	寄付
	箱ゾリ	1	寄付
	練炭カイロ一式	1	寄付
	無線機器一式	1	寄付
	重箱	1	寄付

部門	資　料　名	数量	受入区分
民俗	電子機器	17	寄付
	カメラ　他	35	寄付
	こけし	200	寄付
生物	クロアゲハ（展翅標本）	1	寄付
	ハナタチモミジイチゴ（さく葉標本）	1	寄付
	維管束植物標本（さく葉標本）	354	寄付
	ホシクサ属植物標本（さく葉標本）	3,582	寄付
	ほ乳類・鳥類剥製	7	委託製作
地質	棘皮動物化石（バフンウニなど）	46	寄付
	ムラサキウニ、バフンウニ	4	採集
先覚	黒沢隆朝資料	114	寄付
	根本通明資料	7	寄付
真澄	須藤春代関係資料	3	寄付
合計（件数）		4,453	(27)

◇2019年度資料収集状況

令和２年３月末日現在の資料総数（　）は2019年度分

	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	198	626	18	0	0	3,759 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	6,327	1	13	0	0	13,712 (0)
歴史	5,125	3,550 (13)	113	184	0	73	9,045 (13)
考古	245	2,174	31	190	0	0	2,640 (0)
民俗	2,280	8,093 (321)	120	36	4	0	10,533 (321)
生物	17,345	98,951 (3938)	7,736 (7)	36	1,654	0	125,722 (3,945)
地質	3,556	2,964 (46)	1,408	18	9,152 (4)	0	17,098 (50)
先覚	131	5,357 (121)	12	0	0	2	5,502 (121)
真澄	143	1,778 (3)	11	300	0	0	2,232 (3)
合計	39,528 (0)	129,417 (4,442)	10,060 (7)	803 (0)	10,810 (4)	75 (0)	190,693 (4,453)

◇2019年度資料特別利用状況

目的別

利用者		県内外別			目的別						
		県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他
博物館	都道府県立	0	6	6	2	0	0	0	5	1	0
	市町村立	2	5	7	1	0	1	0	5	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
企業	出版	19	25	44	43	0	0	0	0	1	0
	映像	2	1	3	1	1	1	0	0	0	0
	TV	12	6	18	0	18	0	0	0	0	0
	その他	3	3	6	0	0	3	0	1	2	0
教育機関	大学	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都道府県		14	2	16	1	0	14	0	0	1	0
市町村		9	1	10	5	0	3	0	0	2	0
個人		18	9	27	10	0	2	0	1	13	1
計		79	59	138	64	19	24	0	13	20	1

◇2019年度館蔵資料貸出状況

貸出先		県内外別			目的別				
		県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等		10	5	15	15				15
教育機関	大学	2		2		2			2
	高等学校								0
	中学校								0
	小学校	1		1			1		1
	その他								0
研究所・文化団体			2	2	2				2
出版報道機関									0
都道府県									0
市町村		1		1	1				1
個人		1		1	1				1
その他									0
計		15	7	22	19	2	1	0	22

部門別

部門	利用数	利用内容						
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	画像転載	その他
工芸	2	0	2	0	0	0	1	0
考古	18	8	13	7	0	3	2	1
歴史	21	1	21	4	0	0	11	0
民俗	14	5	13	6	1	0	2	0
生物	3	0	2	2	0	1	0	0
地質	0	0	0	0	0	0	0	0
先覚	24	1	22	6	2	0	15	0
真澄	55	0	43	41	9	0	6	0
その他	1	0	1	0	0	0	0	0
計	138	15	117	66	12	4	37	1

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。
※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

データベース化の推進

平成24年度以来の「デジタルアーカイブ＆アプリケーション開発事業」では携帯端末の専用アプリによる画像閲覧を提供してきたが、ＯＳのアップデートへの対応やサーバ使用料などの経費が出せず、打ち切りとなった。今後は秋田県立図書館のデジタルアーカイブで提供されている同様のコンテンツだけとなる。

今後はこの事業とは別に、収蔵資料情報の整備が中心的課題となる。

燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸消毒は令和元年９月６日(金)～９月13日(金)に、アルプ（酸化プロピレン）を使用し、３階収蔵庫のうち生物・民俗収蔵庫と、真澄資料センター収蔵庫を燻蒸した。秋博協加盟館から受け入れた燻蒸資料も同時に燻蒸した。小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により寄贈・借用資料の搬入時に使用した。2019年度の稼働回数は19回であった。

3　展示活動

2019年度の特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」は1964年の東京オリンピックとその時代をテーマにした自主企画の展示であったが、名称の使用などに意外な障害があり、展示内容以外の部分で担当者が苦労する場面が多かった。当時を知るシニア層やさまざまな形で関わりがあった方々からは、よい反応があったように思われる。企画展示３本は、いずれも低予算で実施されたものであるが、良質な内容で、「北前船と秋田」や「山と生きる」は地元の方々の関心が高かった。予算不足の中、今年度の企画展はいずれも50万円程度の予算で、リニューアル直後に比べると２割～３割程度の額である。企画展の回数や規模について再考が必要になりつつある。

出張展示は担当者の転勤で残された担当者の負担が大きくなり、本館の企画展・特別展実施担当者が出張展示も担当している場合が多く、業務が過重になっている。来年度からは実施方法を改めて、件数を減らす方向で進めている。

企画展ほか

◇企画展「秋田県博の自然史標本」　平成31年４月27日(土)～令和元年６月23日(日)

＜展示概要＞

秋田県立博物館は、県内では数少ない自然史の拠点の一つとして40年以上にわたり活動してきた。これまでに蓄積してきた収蔵標本の概要を紹介するとともに、標本の収集と保存の意義の理解、郷土の自然を記録する活動への関心の喚起をねらいとして企画した。

展示では、さまざまな形態の収蔵標本、貴重な標本、受け入れた個人コレクション、博物館の収集活動の現状などを紹介した。

＜展示構成＞

第１章　標本のさまざまな形

資料の性質や調査目的に応じた、さまざまな形態の地質・生物標本を展示した。

第２章　採集と標本の作り方

野外での採集の道具、標本作製のための道具、保存のための道具を展示した。

第３章　特別な標本

登録記念物、天然記念物などの標本、県内絶滅種の標本、タイプ標本など、特別な標本とその価値を紹介した。

第４章　個人コレクションの継承

これまで当館が受け入れてきたまとまった個人コレクションの例を紹介し、後世に残す意義と課題を説明した。

第５章　コンプリートの夢

維管束植物，昆虫など，秋田県産種の網羅を目指して収集を続けている標本を展示した。

第６章　標本を読み取る

収蔵標本の中から見いだされた新種、ＤＮＡ分析に利用された標本などを紹介した。

第７章　共有財産としての標本～情報公開と学術利用

収蔵標本の情報が、どのように公開され、利用されているかについて紹介した。

＜付帯事業＞

標本作製の実演　　４月30日(火)、５月26日(日)

展示室内で、チョウ・ガの展翅、微小昆虫の標本作製の実演を行った。

担当：梅津一史（生物）

◇特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」　令和元年７月13日(土)～９月１日(日)

＜展示概要＞

2020年の東京オリンピックを控え、オリンピックに対する関心や気運が高まる中、前回日本で開催された1964年の東京オリンピックの頃、どのような社会情勢であったのか。また、秋田県からはどのような選手が出場し、活躍したのか。そして1964年のオリンピックから半世紀

の間にスポーツをとりまく技術はどう進歩していったのかを紹介した。あわせて2020年の東京オリンピックについて、秋田県内における事前合宿地での取り組みを紹介した。

＜展示構成＞

1　1964年という時代

（1）日本を駆け抜けたニュース（新聞記事、新幹線ひかり号関係）

（2）販売された商品、流行（食品、日用品等）

（3）スポーツ（プロ野球、高校野球、大相撲関係資料等）

（4）文芸・出版（1964年の芥川賞、直木賞、ベストセラー等）

（5）芸能・音楽（レコード、ポスター、雑誌等）

2　1964年の東京オリンピックと秋田

（1）1964東京オリンピックと人々の暮らし（パンフレット等）

（2）1964東京大会の公式用具・用品

（3）聖火リレーと秋田（聖火リレートーチ、写真パネル等）

（4）秋田県の出場選手（メダル、写真、関連資料等）

3　1964年の東京オリンピックから半世紀

（1）1968メキシコから2016リオデジャネイロまで（公式マスコット等）

（2）スポーツの進化（競泳の水着、体操競技ユニフォーム）

（3）科学技術の進歩（計算機、パソコン等）

4　東京2020大会

（1）関連公式ライセンスグッズと競技内容

（2）秋田県の事前合宿地（大潟村、美郷町、大館市）

＜期間中のギャラリートーク＞

来館者が集中するお盆の期間中（８月11日～17日）を中心に16回実施した。

担当：深浦真人（民俗）

◇企画展「北前船と秋田－日本遺産認定記念－」　令和元年10月５日(土)～11月17日(日)

＜展示概要＞

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落」が文化庁から日本遺産に認定された。北前船の語は広く知られているが、その具体的な姿は一般によく知られていない。本展では北前船の歴史、寄港地の当時の姿、日本海にかかわる秋田の地域史などを紹介し、北前船が秋田とどのような関わりがあったのか、県民が具体的なイメージをもって「遺産」を活用できるような情報を提供することを目的とした。開展後、来館者から突っ込んだ内容の質問がたびたび寄せられ、北前船への関心の高まりが改めて確認された。

＜展示構成と主な資料＞

北前船とは

北前船の定義、船員の構成、有力な船主、日本遺産の構成自治体等に関する解説パネル、弁財船模型、四爪錨、船箪笥、船御法、和磁石、難船絵馬、海図、蒸気船登場を物語る引札・絵馬等

つながる地域

長浜谷家資料「歳々入船帳」、同資料による土崎来航船の船籍地地図パネル、日本海岸各地からの到来品（土崎神明社奉納品等）、引札（松本家資料）

海の道、川の道
　川船船着き場解説パネル、川船の古写真パネル、秋田領六郡絵図、久保田城下絵図
港の商人たち
　東講商人鑑、土崎図書館蔵間杉家文書、松本家資料
船のある風景
　能代・船川・土崎の古写真・地図、港湾風景の絵葉書写真拡大パネル等
秋田の廻船
　船絵馬、田沼慶吉文書、蓑虫山人画記行（田沼家）、秋田の廻船の傾向解説パネル等
北をめざす人々
　蝦夷地絵図（間杉家文書）、北海道渡航案内、アツシ、秋田からの渡道に関する解説パネル等
＜関連事業＞
　展示解説会
　　10月５日(土)、10月20日(日)、11月17日(日)
　　13:30～14:10

担当：新堀道生（歴史）

◇企画展「山と生きる－太平山の信仰と人々のくらし－」　令和元年12月７日(土)～令和２年４月５日(日)

＜展示概要＞
　秋田県中央部に位置する太平山は、山や田畑に豊かな実りをもたらし、航海の安全をまもってくれる山として人々の信仰を集めてきた。また、麓の地域では農業や林業などを生業とする他、秋田市太平地区では農作業で使われる箕作りが盛んに行われていた。展示では太平山の信仰と人々のくらしに焦点を当て、秋田市広面赤沼の太平山三吉神社に奉納されたものや文書類などを展示した。また、くらしの部分では生業の道具とともに映像などを交えて、道具の使い方を見てもらう工夫をした。
＜展示構成＞
第１章　山をうやまう
（１）修験の山　太平山
　太平山の本地仏であった薬師如来に関する掛け軸や棟札のほか、秋田県指定有形民俗文化財の山谷番楽面を展示した。
（２）三吉さんが神になるまで
　太平山の神の一人である三吉大神の掛け軸や縁起、伝説などから三吉大神の多様な面について紹介した。
（３）広がる太平山信仰
　太平山へ参詣した人々の広がりや、三吉神社で行われている梵天行事などについて紹介した。また、「おいだら山から来る」伝承を持つ男鹿のナマハゲ面についても展示をした。
第２章　山とくらす
（１）太平山とともに
　林業や川漁、農業の道具などを写真パネルを交えて紹介した。
（２）箕つくりのムラ
　秋田市太平黒沢地区で行われている箕作りについて、製品や道具、材料などを紹介した。それに伴い、箕作りの映像や、千葉大学大学院工学研究院の植田憲教授と青木宏展氏が制作した箕を動かす時の動作をモーションキャプチャーで示した映像なども紹介した。
（３）名所・太平山
　菅江真澄「月のおろちね」の他、記録されたり、描かれた太平山について紹介した。また、日本酒の銘柄である「太平山」について、関連の杯や書額などについて展示をした。

＜付帯事業＞
「太平山を詠む」　令和元年12月21日(土)
　秋田手仕事文化研究会ならびに太平黒沢地区のみなさんに協力いただき、太平山についての短歌や俳句を詠む会を行った。この時に詠んだ短歌ならびに俳句については会期中展示室内で紹介した。
「展示解説」　会期中毎月第２土曜日
　企画展の展示解説を毎回30分程度行った。ただし、３月以降は新型コロナウイルス感染予防のために中止となった。
「講演会　三吉大神の謎を解く－この神はいかなる神であるのか－」　令和２年３月７日(土)

秋田県民俗学会副会長の齊藤壽胤氏に講演いただく予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。

担当：丸谷仁美（民俗）

◇菅江真澄資料センター　企画コーナー展

〔第79回企画コーナー展〕

Letter from 真澄　－真澄からの便り－

令和元年７月６日(土)～８月25日(日)

真澄の日記や地誌などは「公」を意識して書かれており、真澄個人の心情を直接的に表している箇所は、それほど多くない。一方で、真澄が親しい人に宛てた書簡からは、飾らないありのままの真澄の「私」的な心情を感じ取ることができる。「便り」という言葉を辞書で引くと「頼りと同源」とある。日々、旅の中に生きた真澄にとって「便り」を出す相手は、文字通り異郷の地で「頼り」にした存在であったのだろう。信頼する相手だからこそ、心置きなく伝えることができた内容がそこには書かれている。展示では、真澄自筆の書簡資料を元に、そこから垣間見える、飾らないありのままの真澄の人物像について考察し、紹介した。

＜展示構成＞真澄から書簡を送られた人物の紹介、生真面目な真澄、本の虫真澄、愚痴をこぼす真澄、好奇心旺盛な真澄、友人やその家族を心配する真澄、気遣いができる真澄、認められたことを喜ぶ真澄

担当：角崎　大（真澄）

〔第80回企画コーナー展〕湯沢・雄勝を記録する

令和元年10月19日(土)～12月８日(日)

私たちが読んでいる雄勝郡の地誌は、未完成である上、「秋田叢書」の編纂をそのまま引き継いでいるものである。そのことを前提として、雄勝郡の地誌の特徴を８点にまとめた。中でも、地誌編纂における『六郡郡邑記』の利用については、村落の記述比率を出して利用の可能性を示した。また、高階貞房宛書簡(館蔵)は、雄勝郡の地誌編纂とのかかわりで見直すと興味深い内容を含んでいることがわかった。以上の新知見の他、「高松日記」、「駒形日記」、初期の日記について、旅の足跡をパネルにまとめるとともに、随筆のまとめ、さらには、勝地臨毫雄勝郡の描写地点を地図上に落とすなどして、観覧者の理解を図った。

＜展示構成＞地誌での記録、地誌に含まれた日記の記録、初期日記での記録、随筆での記録、勝地臨毫での記録の構成

担当：松山　修（真澄）

〔第81回企画コーナー展〕真澄、八郎潟周辺を歩く

令和２年３月14日(土)～５月17日(日)

「この中秋の名月を、八龍の湖(八郎潟とこの国の人は言っている)に行って眺めたいと思い、八月十四日、久保田から出立する。」これは真澄の日記『男鹿の秋風』(文化元年・1804)の冒頭文の意訳である。真澄が心惹かれた八郎潟は、琵琶湖に続き、かつて日本第2位の広さを誇る、日本海ともつながる汽水湖であった。果てしなく広がる湖面、そして湖岸に連なる美しい山々の情景は、県内でも有数の景勝地として知られ、また多くの魚が捕れた豊かな湖でもあった。当然、周辺に暮らす人々の生活の中心には八郎潟があった。しかし、それは必ずしも、詩情溢れる風景に囲まれ、豊富な資源に恵まれた豊かな生活というわけではなかった。厳しい自然とともに生きる人々がそこに暮らしていた。真澄は八郎潟周辺を幾度となく歩き、その地に根付く文化、習俗、信仰、そして人々の暮らしぶりを記録している。展示では真澄の視点を通して、八郎潟周辺やそこに暮らす人々の様子などについて紹介した。

＜展示構成＞

八郎潟の名称を想う（琴の湖・八龍湖）、人々の生業を知る（間手網漁・張切網漁・氷下引き網漁・潟端の農業）、板碑を見る（井川町実相院の板碑・八郎潟町小池板碑群・潟上市昭和大久保大日神社の板碑・男鹿市道村永源寺の板碑）

担当：角崎　大（真澄）

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展「斎藤宇一郎と斎藤憲三」　令和元年９月28日(土)～11月24日(日)

斎藤宇一郎は明治・大正期のにかほ市出身の農政家である。また、その子息憲三はフェライトを工業化した実業家である。宇一郎については、農業指導に関係する資料や横荘鉄道関係資料を展示した。また、憲三については、ＴＤＫに関係する資料や東海林太郎からの書簡、中曽根康弘の色紙などを紹介した。最後に宇一郎・憲三と白瀬矗一家との交流を示す資料を紹介し、合わせて約50点の資料を展示した。

なお、本展の開催にあたり、羽後交通株式会社、ＴＤＫ歴史みらい館、斎藤宇一郎記念会、フェライト子ども科学館、白瀬南極探検隊記念館、雄物川郷土資料館のほか、齋藤憲三・山﨑貞一顕彰会などからも協力をいただいた。

＜展示構成＞

1　（宇一郎）生い立ち
2　農村指導に取り組む／「小作保険法」を提唱
3　横荘線の実現に向けて／宇一郎の功績を讃えて
4　（憲三）生い立ち／アンゴラ兎事業に失敗
5　東京電気化学工業株式会社を創設
6　科学技術振興のために／憲三の功績を讃えて
7　宇一郎・憲三と白瀬家

＜付帯事業＞

（1）秋田の先覚記念室講演会「齋藤憲三先生を想う」
講師：山崎澄子氏（齋藤憲三・山﨑貞一顕彰会評議員）
参加者：49人　　11月３日(日)

（2）展示解説（５回）

担当：平田有宏（先覚）

◇可変展示

〔自然展示室〕

自然展示室の可変展示コーナーでは、「トンボのメガネ」（７月25日～１月31日）、「フユシャクガ」（11月23日～３月31日）の２つの展示を行った。また、小さなブースを設け、「速報展示　外来昆虫ラミーカミキリ東北で初めて秋田県での生息を確認」（11月８日～12月27日）といういう小展示を実施した。

「トンボのメガネ」では、トンボの翅脈などの細密スケッチと実物標本を置き、気づきにくい微細な構造と分類について紹介した。

「フユシャクガ」では、県内で見られる寒冷期に成虫が出現するシャクガ類を標本や写真で紹介し、出現期や生態などについて紹介した。

担当：梅津一史（生物）

〔ふるさとまつり広場〕

2019年度は例年通り民俗部門及び工芸部門で、秋田の四季を感じられる行事などを７回行った。令和２年度は季節ごとの祭りや行事についての展示を行い、来館者の方へ季節感を感じてもらえるような場としたい。

－2019年度の展示－

端午の節句	４月９日(火)～５月12日(日)
鹿島信仰	５月21日(火)～６月23日(日)
七夕絵どうろう	７月２日(火)～９月１日(日)
秋田の布	９月17日(火)～10月12日(土)
年祝い	10月26日(土)～11月24日(日)
ナマハゲ	12月３日(火)～１月19日(日)
ひな人形・押絵	３月３日(火)～４月５日(日)

担当：深浦真人・丸谷仁美（民俗）

〔ロビー展示〕

「アイリスの会作品展」　令和２年１月24日～２月28日

秋田県立博物館ボランティア「アイリスの会」は平成13年に発足し、それ以来博物館においてイベントの補助や名誉館長館話受付、わくわくたんけん室や博物館教室、セカンドスクールの支援、図書整理など多方面に渡り多大なる協力・支援を頂いている。本作品展は日頃の会員の活動の様子や作品を発表し、アイリスの会の活動について広く周知することを目的に企画したものである。

活動の様子をパネルによって紹介したり、普段ボランティア活動で使用している道具や制作した絞り染めの着物、藁細工などを展示した。

また付帯事業としては藍チームによる実演や織りチームによる裂織体験を行い、興味のある来館者が足を止め、作品について会員から教わるなどの光景もみられた。

担当：斉藤洋子（工芸）

◇出張展示、他施設との連携展示

①「平成最後のあきたミニ鉄道展－県博鉄道コレクション展－」　(秋田県立図書館)
平成31年４月１日(月)～令和元年５月27日(月)
観覧者数：5,762名

②「手仕事のわざと美－暮らしの中の編組－」
(亀田城佐藤八十八美術館)
令和元年７月１日(月)～８月17日(土)
観覧者数：490名

③「ふるさとの鉄道展」　(仙北市田沢湖図書館)
令和元年７月20日(土)～８月25日(日)
観覧者数：241名

④「熱帯の昆虫」(白神山地世界遺産センター藤里館)
令和元７月27日(土)～８月24日(土)
観覧者数：3,472名

⑤「真澄コレクション展　菅江真澄関連のお宝」
(大館市立栗盛記念図書館)
令和元年11月２日(土)～10日(日)
観覧者数：75名

⑥「手仕事のわざと美－暮らしの中の編組－」
(横手城天守閣)
令和元年11月６日(水)～11月30日(土)
観覧者数：444名

⑦「輝きの中の鉱物たち」　(角館樺細工伝承館)
令和元年11月９日(土)～令和２年１月26日(日)
観覧者数：3,250名

⑧「“石の花”の輝き－鉱物の世界－」
(秋田県立農業科学館)
令和２年１月31日(金)～３月８日(日)
観覧者数：2,378名

展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。展示室清掃では人文展示室の海運コーナーの展示台と、真澄資料センターのガラス内面を清掃した。

解説案内サービス業務

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Ｑ＆Ａを分担した。昨年度に引き続き冬期間にＱ＆Ａ作成に重点的に取り組んだ。また、９月６日に解説員館外研修を大仙市、仙北市で実施した。旧池田氏庭園（大仙市）、クニマス未来館（仙北市）などを見学し、民俗、生物の分野で解説員が理解を深めることができた。

分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成31年４月１日から令和２年３月31日まで公開した。また附属屋(登録有形文化財)も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、令和元年９月25日(水)に公開し、担当学芸職員が解説を行った。なお、９月25日は秋田市金足黒川にある三浦館(重要文化財)の見学もあわせて行った。

4　教育普及活動

館内及び館外講座については、特別展や企画展等を展示解説するミュージアム・トークが昨年に比べ回数、参加者数ともに増加したものの、異動等により博物館教室（名誉館長館話含む）の参加者数は1,232名（平成30年度1,469名）、館外講座（出張講座等）の参加者数は1,404名（平成30年度3,151名）と普及活動は昨年と比べ全体的に減少した。

イベントは例年同様４月下旬～５月上旬に「軒の山吹」再現をアイリスの会の協力を得て実施（192名来館）、７月には西馬音内盆踊りを中心とした「盆踊りと世界の踊り」を実施し、170名の来館者に楽しんでいただいた。３月に予定されていたミュージアムコンサート「JAZZで巡る世界の旅」は、新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止とした。

博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館の役員会、総会、実務担当者研修会、燻蒸サービスの実施や、秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）の事業であるギャラリートークセッション等への参加のほか、今年度は東北６県の持ち回りで開催している東北地区博物館実務担当者会議を当館を会場に実施した。

ボランティア「アイリスの会」では今年度新たな試みとして会の活動を紹介する展示を行った。なお、ボランティア組織の改編を目指した「友の会」と「アイリスの会」の統合については、今年度両者から合意を得ることができ、互いの活動の様子を情報交換することから始めた。

また、大学生の博物館実務実習や中堅教諭等資質向上研修等に対応した。

普及行事業

◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。

①博物館教室	65回	1,232名
②イベント等	11回	605名
③展示付帯事業等	４回	331名
④ミュージアムトーク	48回	362名

①博物館教室の内訳は別表のとおり。回数･受講者数ともに減少したが、②～④の他の講座を合わせると千人を超える受講者がおり、充実した講座内容といえる。

①の減少は職員側の事情によって左右されるが、それに対応して②～④の回数を増やすなど、館内の普及活動のバランスのとれた充実を図ることが課題となる。

	教　室　名	回数	人数
1	化石と地層の観察会	2	36
2	昆虫教室～採集と標本づくり～	2	46
3	夜の昆虫観察会	1	20
4	くん製教室　初級編	1	10
5	昆虫同定技術入門	1	2
6	「はじめての真澄学」～今さら聞けない真澄～	2	50
7	初めての古文書解読	6	95
8	「真澄に学ぶ教室」講読会～県外の日記を読む～	10	238
9	土器作り教室	2	16
10	三浦館・旧奈良家住宅合同見学会	1	3
11	縄文土器の縄を知ろう	1	10
12	古文書修復体験教室	2	13
13	拓本体験教室	1	6
14	民俗学入門講座	2	27
15	秋田の先覚者	2	16
16	初めての藍の絞り染め	10	123
17	キッズ編組講座	1	23
18	樹皮を編む～オニグルミで作る小物入れ～	2	18
19	ミニコダシを編む～男鹿に伝わるトジナコダシの技術～	1	9
20	ゼロからはじめるわら仕事	3	29
21	糸をつむぐ	1	12
22	未来の学芸員養成講座	3	3
23	「真澄に学ぶ教室」講演会	2	161
24	秋田の先覚記念室講演会	1	49
合　計		60	1,015

名誉館長館話		回数	人数
前期	秋田城の歴史的意義	3	187
後期	秋田の先覚	2	30
合　計		5	217

◇名誉館長館話

今年度の名誉館長館話は以下のテーマで行われた。

・前期『秋田城の歴史的意義』

①５月10日(金)「奈良時代の秋田城」

②６月７日(金)「平安朝における秋田城」

③７月５日(金)「武家時代の秋田城」

・後期『秋田の先覚』

④９月20日(金)「内藤湖南について－」

⑤10月11日(金)「東海林太郎について」

受講生は合わせて217名であり、昨年度よりも受講生の増加がみられた。特に前期の館話は、名誉館長が初めて秋田城をテーマとしたこともあり人気が高かった。

◇イベント等

・『軒の山吹』再現　　４月27日(土)～５月１日(水)

江戸時代の紀行家菅江真澄の図絵に描かれた風習を分館旧奈良家住宅に再現した。開催期間中はあいにくの天候であったが延べ192名の来館があった。

・『盆踊りと世界の踊り』　　７月20日(土)

一昨年度より人文展示室を会場として開催している。地元の保存会の方々による西馬音内盆踊りを中心として、昨年度のバリ舞踊やベリーダンスに今年度は新たにフラダンスも加わり例年以上に幅広い内容で実施した。展示室内という狭いスペースでのイベントのため広報は控えめにしたが、約170名の来館があり好評を得た。

・ミュージアムコンサート『早川泰子の“JAZZで巡る世界の旅”』

進駐軍のピアノを使用した恒例のコンサートを３月20日(金)に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い残念ながら中止とした。

◇ミュージアムトーク

今年度も来館者サービスの一環として、学芸職員によるミュージアムトークを実施した。開催回数48回に対して362名の参加が見られた。昨年度の26回270名と比べ、回数・参加者数ともに増えているが、今年度は特別展や企画展の付帯事業としてミュージアムトークを実施することが多く、そのことが要因であるといえる。ちなみに内訳は、特別展・企画展の解説が29回243名、その他のミュージアムトーク（人文展示室や菅江真澄資料センターで実施）が19回119名となっている。実施時間は大

半が30～40分程度であった。毎月の実施予定表は博物館のホームページに掲載するとともに、総合案内・１階受付に置いて来館者へ配付した。

ミュージアムトークを通じて、来館者が博物館の展示資料等に対する理解を深めるだけでなく、本県の文化や自然に対する関心を一層高めてもらえることを期待したい。

◇館外講座

平成29年度より、県庁出前講座を含めて館外で行われる普及活動を、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。全体で27回、1,404名の受講者であった（昨年度より23回、1,747名の減）。

回数の大幅な減は、出張講座の減によるものである。また、３月に予定していた出張講座及び連携講座各１件が新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止となった。それぞれの内訳は以下のとおり。

①出前講座　７回　227名
②出張講座　13回　749名
③出前授業　５回　218名
④連携講座　２回　210名
⑤その他　　０回　　０名

なお、①県出前講座の内訳は次のとおり。

・博物館の魅力について　１回
・博物館資料から考える秋田の原始・古代　０回
・秋田のくらし･行事　６回
・秋田県の絶滅のおそれのある野生生物　０回

他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会(略称：秋博協)

（１）役員会、総会　５月30日(木)
会場：秋田市立千秋美術館（秋田市）
総会参加19館26名

（２）実務担当者研修会　２月20日(木)
会場：秋田県立博物館学習室（19館22名参加）
講演：「博物館評価 再考：評価対象と手法の多様性」
講師：佐々木　亨　氏
（北海道大学　大学院文学研究院　教授）

（３）燻蒸消毒サービス　９月６日(金)～13日(金)
７館(大湯ストーンサークル館、潟上市郷土文化保存伝習館、由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設、美郷町学友館、雄物川郷土資料館、後三年合戦金沢資料館、秋田県立農業科学館)が利用した。

（４）秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」
各加盟館が掲載内容を随時更新した。

（５）会報の発行『秋博協だより』第54号
Ａ３判二折、両面黒１色、600部
令和２年３月に刊行し、加盟館に配布した。
加盟館数：52館（令和２年３月31日現在）

◇博物館「友の会」

（１）役員会・総会　４月13日(土)

（２）秋田学を深める研修１～４
①クニマスの未来を尋ねて　７月21日(日)
②湯沢再発見　８月５日(月)
③石沢渓谷とボツメキ湧水を巡る　９月28日(土)
④国指定史跡鳥海山　道者道を探索する　10月10日(木)

（３）県外研修
①富士山世界遺産バス巡り　６月20日(木)～21日(金)

（４）世界遺産研修
①ベトナムの世界遺産と自然を尋ねる　12月12日(木)～16日(月)

※（２）の①・②、（３）、（４）は参加者不足のため中止となった。

（５）各ボランティアによる活動
・古文書整理ボランティア(12名)　毎週水曜日活動
・秋田古文書同好会(17名)　毎週金曜日活動
・植物標本ボランティア(12名)　毎週火曜日活動
・考古ボランティア(15名)　隔週土曜日活動
・地質ボランティア(１名)　随時活動

（６）友の会だより
・第48号（11月刊行、Ａ４判両面カラー、250部）
・第49号（３月刊行、Ａ３判二折両面カラー、250部）

（７）印刷物等配布　４回
４月22日、７月11日、11月７日、３月31日
会員数：155名（令和２年３月31日現在）

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、お話・織・図書・藁・藍の５チーム編成で活動に取り組んでいる。

お話チームは、わくわくたんけん室での「おはなし会」の実施、講演会等の受付など来館者へのサポートを

中心に活動した。

織チームは、わくわくたんけん室での体験補助を中心に活動し、「裂き織り体験」の補助を充実させた。また、初めての取り組みとして、夏休みに子供向けイベント「楽しい裂織体験」を実施した。

図書チームは、図書資料の整理(考古図書も含む)活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行った。

藁チームは、定期的にワラ細工の製作技術研修を実施しながら、博物館教室や学校団体利用のワラ細工体験を支援した。年末にはしめ飾り作り教室を開催した。

藍チームは、わくわくたんけん室でのたたみ染め体験や、セカンドスクールで来館した高校生への絞り染めの支援を行った。

全チームによる取り組みとしては、例年の「軒の山吹」再現への支援のほか館外研修などを実施した。

会員数：45名（令和２年３月31日現在）

◇その他団体（みるかネットなど）

みるかネット連携講座として、秋田市文化施設連絡協議会が11月12日に「バスツアー～近世の商業文化に思いを馳せる建物めぐり～」を実施した。県立博物館、赤れんが郷土館、旧金子家住宅、高砂堂、計４館を巡るツアーで、14名の方が参加した。また、イベント通信の発行を例年と同様行った。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

2019年度の博物館実習は、８月27日～30日、９月３日～４日までの計６日間で行い、八洲学園大学、筑波大学、千葉大学、新潟大学、東北芸術工科大学、皇學館大学、東京学芸大学、石巻専修大学、秋田公立美術大学の計14名の実習生を対象にして実施した。

実習は、講義形式で博物館に関する事を学ぶものと、体験実習形式で、資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する実務的なものと、二つに分け行った。

◇中堅教諭等資質向上研修

能代西高等学校と四ツ小屋小学校から教諭２名が当館の研修を選択した。日程は７月30日(火)～８月１日(木)の３日間であった。

研修内容は、１日目がわくわくたんけん室での来館者対応、２日目が学芸職員の業務体験（工芸部門・考古部門)、３日目が「教員のための博物館の日」に参加しての、各展示室及び分館の見学、たたみ染めや模擬セカンドスクールの体験活動等である。

この研修で得られた博物館での経験が今後の職場で活かされることを願っている。

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

博物館活動については、平成31年４月から令和２年３月までの一年間、新聞や雑誌等による129件の記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年２回行われる博物館協議会において委員へ配付した。また、ウェブサイト上に各種団体やサークル等が、博物館で開催されるイベント等を紹介する機会も徐々に増えてきた。掲載希望団体とＵＲＬを記録し、今後の広報活動に活用していく必要がある。博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をはじめ、マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の魅力を一層広めていきたい。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。令和元年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次のとおりである。考古14件、歴史13件、民俗４件、工芸６件、生物19件、地質５件、真澄30件、先覚17件、その他８件。

5　広報出版活動

展示やイベントに関するポスターやチラシについては、内容に合わせて配布計画を検討し、関連団体や学校等に重点的に配布した。ポスターやチラシは宣伝効果が大きいことから、訴求力や正確性に留意したデザインと内容に工夫を図った。

マスコミ・地元情報誌等に関するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて時機を逸することなく積極的に行い、特に特別展については地方紙に開催広告を掲載した。

今年度は秋田魁新報からの依頼で、県内の美術館や博物館等からの寄稿による「すいよう学芸館　美を知る」に８回掲載し、学芸職員が当館の収蔵資料や展示について紹介した。

ホームページやフェイスブックは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて頻度の高い更新や投稿を行った。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせ年５回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・チラシのほか当館が発行した各広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校、図書館、公民館などの公共施設や県内外の博物館、道の駅などの観光施設等に発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の１か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

特別展・企画展については、展示内容に関係する団体や資料借用などで協力を依頼した施設等をチラシの配布先へ追加し、情報の周知を図った。

展示やイベントの情報提供については、各報道機関が所属する県庁記者クラブへのプレスリリースを11回行い、特別展・企画展をはじめとして、企画コーナー展や各種イベントなどにも多くの取材があり、新聞等で紹介された。また、教育委員会広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載を積極的に働きかけ、博物館の情報の周知に努めた。さらに、秋田県生涯学習センターで管理運営している生涯学習支援システム「まなびサポート秋田」に展示情報を掲載してもらい、お互いに連携を深めることができた。広報は、集客に直結するものであり、多くの県民に興味・関心をもっていただけるよう、より効果的な広報について今後も工夫と改善を図っていきたい。

出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

企画展「秋田県博の自然史標本」	Ｂ２判	1,200部
特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」	Ｂ２判	1,200部
企画展「北前船と秋田－日本遺産認定記念－」	Ｂ２判	1,200部
企画展「山と生きる」	Ｂ２判	1,200部

◇展示広報チラシ

企画展「秋田県博の自然史標本」	Ａ４判	20,000部
特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」	Ａ４判	20,000部
企画展「北前船と秋田－日本遺産認定記念－」	Ａ４判	20,000部
企画展「山と生きる」	Ａ４判	20,000部

◇展示解説資料

秋田の先覚記念室企画コーナー展「斎藤宇一郎と斎藤憲三」	Ａ４判	８頁	1,000部

◇広報誌

博物館ニュースNo.169・170	Ａ４判	８頁	各2,300部
広報紙「真澄」No.37	Ａ４判	８頁	1,500部

◇報告書等

年報2019年度	Ａ４判	46頁	1,000部
秋田県立博物館研究報告第45号	Ａ４判	86頁	600部
真澄研究第24号	Ａ５判	88頁	500部

インターネット利用

2019年度のホームページへのアクセス数は約５万回で、閲覧状況の記録から、トップページや企画展のページがよく閲覧されていることがわかった。トップページに設置したスライドショーやバナー、イベントカレンダーを随時更新して告知を十分に行うとともに、フェイスブックも適宜更新して話題や情報を提供している。

電子メールについては、県内外からの様々な問い合わせ、博物館教室や講演会などの申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、外部とのデータのやり取りで使用頻度が上がってきている。

6　学習振興活動

学習振興班の活動は、体験型展示室の運営と学校団体利用の支援・促進が中心となっている。また、振興活動として高校生インターンシップ・ボランティア活動や中学校職場体験について積極的に受け入れを行っている。

体験型のわくわくたんけん室には、４つに色分けされた「宝箱」約75点ほどを配置し、自由に学習体験ができる環境をつくっている。

2019年度は、石膏で作るアイテムとして11月末までイノシシ、１月からネズミの干支人形づくりを実施しているが、一年を通して人気の高いアイテムである。

企画展や特別展との関連事業では、ペーパークラフト「北前船の紙工作」の実施や顔出しパネル「感動のゴールランナー」も設置し、幅広い年齢層から好評を得た。

学校団体の利用については、毎年５月から６月にかけてピークをむかえるが、この２か月間で２千５百人近くの児童生徒の受け入れを行った。

小学校の見学では旧奈良家住宅の見学や昔の道具の解説の要望が増えているが、「教員のための博物館の日」での実演や学校への広報による効果が徐々に現れ始めているものと思われる。

学校利用については、今後も児童生徒の自然減の影響もみられるが積極的に受け入れていきたい。

わくわくたんけん室の運営

◇一般及び団体利用への支援・指導

わくわくたんけん室は「体験しながら学ぶ」をコンセプトに、平日は就学未満の小さなお子様連れの方から高齢者まで、幅広い年代層に利用されている。幼稚園や小学校の学校団体がセカンドスクール的利用で来館する際、わくわくたんけん室で体験型学習も希望するケースが多く、石臼体験やたたみ染め体験を通して、楽しみながら昔の道具や染色技法について学習を深めている。

このような体験型学習を支援するにあたり最も大切なことは利用者の安全である。館内は走らずに利用してほしいことや、ハサミやグルーガン等の道具の扱い方や注意点を丁寧に説明し、事故防止に努めた。今年度は大きな事故やトラブルなく運営することができたが、新型コロナウイルス感染の予防措置として、２月29日から年度末までわくわくたんけん室を閉鎖した。

今後も幅広い年代層に利用していただけるよう、安全対策に努める他に、各展示室と連携し、来館者が企画展に興味関心を持ってもらえるようなＰＲ活動にも努めていきたい。

◇室内・体験アイテムの保守管理

体験型展示室であるわくわくたんけん室では、子どもから大人まで、実際に資料を手に取り、また、もの作りを通して、秋田の自然や歴史、昔の暮らしや伝統、産物について、楽しみながら学んでもらうことを目的として

いる。室内に宝箱として常設している資料やアイテムの他、季節に合わせて様々な工作体験イベントが設けられている。これらの工作アイテムは、合わせると数十種類になり、材料の種類はその数倍の点数となる。これらの材料に不足が生じないよう、在庫管理を徹底し、消耗品等の在庫が少なくなった場合、早めに発注し常備されているように心掛けた。

わくわくたんけん室は小さい子ども連れの家族利用が多く、小学校・幼保のセカンドスクール的利用においても人気がある。室内の様々な設備、道具類やアイテムの故障・破損等は即座に使用者の安全に関わるため、常に注意を怠らず、破損物の速やかな回収と、補修・代替品の補填等に努めた。また、不特定多数の人が多くの物に接触するため、清潔な状態を保てるよう衛生管理を心掛けた。

◇宝箱及び体験アイテムの改善・開発

宝箱については、けん玉やお手玉、コマなどの昔の遊びを手軽に楽しんだり、石臼やかにの手などの興味関心を抱いたアイテムを活用する利用者やセカンドスクールの団体が和やかに楽しむ姿が見られた。

体験アイテムの中では、恒例となっている石膏でつくる人形のネズミが注目された。また、2019年度の特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」の顔出しパネルを、総合案内の２階受付に設置したことにより、展示への興味を沸かせ、関心を引き出す効果が見られた。

新アイテムでは、特別展のオリンピックの塗り絵のメダル作り、企画展の「北前船」の立体紙工作などの開発を行った。また、今後継続しやすいアイテムが望まれているので、アイデアを生かした楽しいものを開発していきたいと考える。

◇季節アイテム、イベント

わくわくたんけん室では、2019年度も月ごとや企画展に合わせてイベントを行い、幼児や小学生の親子連れから高齢者まで、幅広い年齢層の方々に利用いただいた。イベントは平成30年度と同様、「たたみ染め・レプリカづくり」を軸としつつ、「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！（春・秋)」、「貝のマグネット・標本づくり」、「ミニ門松・しめ縄づくり」、「木の葉・木の実アートづくり」を行った。

「貝のマグネット・標本づくり」では、ボランティアの方にもスタッフとして加わっていただいて、利用者に貝の種類を教えたところ、特に作った標本を「自由研究」とする子どもに好評であった。秋の「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！」では、ミッションを４枚クリアすると石膏の人形（犬または鳥、先着100個）か従来のマル秘情報カード（４枚）と交換できるように変更したところ、何度も来館する子どもが複数見られた。

なお、季節アイテムは鯉のぼり、なまはげ（お面)、雛祭りのペーパークラフトを各季節に提供した。

◇出張わくわくたんけん室

・自然科学学習館イベント　7月15日(月)
　会場：アルヴェ、職員２名派遣
　たたみ染め66名、イタヤ馬７名、コマ31名、ちょうのぬり絵20名参加
・湯沢市教育委員会主催イベント　7月25日(木)
　会場：高松地区センター、職員２名派遣
　たたみ染め34名、イタヤ馬31名、コマ32名、ちょうのぬり絵24名参加
・ジオパーク推進協議会主催イベント　８月８日(木)
　会場：アルヴェ、職員２名派遣
　化石標本づくり126名参加
・自然科学学習館イベント　10月14日(月)
　会場：アルヴェ、職員２名派遣
　たたみ染め39名、イタヤ馬０名、コマ13名、ちょうのぬり絵９名参加

学校団体による博物館利用の支援

◇セカンドスクール的利用

利用状況は、平成30年度と比較すると全体として学校数、利用人数ともに減少した。これについては、中学校の利用校が大きく減少し、それに伴い中学生の利用人数が1000人程度減少したことが大きく影響している。以下、各校種について平成30年度と比較する。

幼稚園・保育所については、利用学校数は、昨年並みであった。小学校は学校数、利用人数ともに減少した。冬季の利用では感染症流行によるキャンセルも起こりうる。今年度は２月に利用申し込みのあった小学校で、インフルエンザによる学級閉鎖があり、やむなくキャンセルになった学校があった。また、２月末の新型コロナウ

イルスの流行に伴う全国的な休校措置に伴い、３月のセカンドスクールは受け入れることができない事態となった。中学校に関しては、昨年まで宿泊研修や職場見学との組み合わせで来館する学校が目立ったが、今年度は宿泊研修での利用はなく、職場見学の利用にとどまり、大きく利用者が減少した。高等学校と特別支援学校の利用は顕著に増加した。

	2019年度		平成30年度		平成29年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	16	604	19	863	24	1,269
小学校	73	3,630	84	4,079	96	4,874
中学校	15	351	24	1,300	20	1,238
高等学校	30	771	14	417	17	553
特別支援学校	6	54	4	33	3	70
その他	1	33	3	74	5	95
合計	141	5,443	148	6,766	165	8,099

全体としての利用学校数の減少は今後も検討課題である。学校の博物館利用についてよく周知させるとともに、各学校の必要に応じた細やかな配慮ができる体制を整えたい。

◇出前授業

2019年度の出前授業は、小学校４件、特別支援学校１件の、合計５件の申し込みがあった。

平成30年度は小学校が２件、中学校１件、特別支援学校が１件の合計４件の利用であり、１件の増となる。

小学校の利用は増えたが、今年度は中学校・高等学校の利用がなかった。今後の利用状況によっては、出前授業の内容と、学校カリキュラムとの整合性を検討する必要があるだろう。

教員に向けての広報としては、セカンドスクールでの来館利用時、また「教員のための博物館の日」に、出前授業に関する説明を行っている。教室に居ながら実際の資料に触れ、専門の学芸職員による解説を加えることで、教科書だけでは得られない、より深い理解に繋げられるという利点を強調した広報を検討していきたい。

秋田きらり支援学校小学部６年（５名）
　大地のつくりと化石標本づくり　９月19日(木)
勝平小学校４年（111名）
　秋田のくらし・行事　９月20日(金)
戸島小学校６年（12名）
　大地のつくり　11月21日(木)
高清水小学校特支学級（９名）
　しめ縄作り体験　12月13日(金)
泉小学校３年（81名）
　さぐってみよう昔のくらし　２月14日(金)

◇職場体験、インターンシップ

当館は、社会教育的施設であることから、職業教育の一環として博物館に勤務する学芸職員の職務内容を学んでもらうために、中学校の職場訪問・体験、高等学校のインターンシップの受け入れを行っている。本年度では、中学校４校11名、高等学校４校９名の受け入れを行うことができた。

参加した生徒は、主な活動の内容として、わくわくたんけん室の利用者対応の補助、創作的な活動に関わる材料の作成や準備を行うことができた。また、貝殻の洗浄や木の実の採集なども行い、意欲的に活動する姿が覗えた。そして、初めての職場の訪問先である博物館の裏方の仕事に取り組むことを通して、自分の将来について主体的に考え、望ましい職業観や働くことの意義等について学ぶ機会とすることができた。

このような取り組みを行うことによって、博物館が地域で果たす役割について生徒が探求し、そのよさを見つめ直すことにもつながげていきたいと考えている。

＜職場体験＞
秋田南高校中等部３年（１名）　８月29日(木)
飯島中学校１年（４名）　10月18日(金)
潟上市教育委員会：天王南中学校２年（３名）
　10月23～25日(火～金)
秋田北中学校２年（３名）　10月30・31日(水・木)

＜インターンシップ＞
能代高校２年（２名）　７月24・25日(水・木)
金足農業高校２年（２名）　８月７～９日(水～金)
五城目高校２年（２名）　８月27～29日(火～木)
男鹿工業高校２年（３名）　９月25・26日(水・木)

◇教員のための博物館の日

８月１日(木)「教員のための博物館の日」は、各学校種、教育機関などから合わせて24名の参加があり、実施した。午前中は、セカンドスクール利用の概要を紹介し、その後、わくわくたんけん室の利用について説明をした。また分館・旧奈良家住宅においては、概要説明と昔の人の暮らしや昔の道具などの授業を行う際に活用できる箇所・ものについての解説を行った。午後からは、学習室にて和紙たたみ染めの製作体験を行い、活動時間や作業の難易度を体感してもらった。その後、特別展の見学及び本館各展示室を２つのコースに分かれての見学を行った。いずれも学芸職員が解説を行った。見学後は、実験教室に移動し、貸出資料についての説明を各部門ごとに詳しく行い、活用方法などにもついて紹介した。

国立科学博物館が中心となって連携実施している「教員のための博物館の日」に加盟して３年目の実施となった。様々なバックアップをしてもらうことができる点でメリットがあった。また、秋田県総合教育センターからチラシ配布など、広報面での協力を得ることができ、過去３年のうちで、一番多くの参加者を募ることができた。参加して頂いた24名の先生方からは概ね好評な感想をもらったが、当館のセカンドスクール的利用への更なる啓蒙を図るためにも、よりよい活動を目指したい。

◇教員長期社会体験研修

教員長期社会体験研修は学習振興班が担当となり研修を行った。平成30年度は当館での研修の実施はなかったが、2019年度は小学校教諭１名の受け入れとなった。

研修の成果については、第34回秋田県教育研究発表会（秋田県総合教育センター）で発表し、研修を無事に終えることができた。

・研修員：櫻庭悦央（五城目町立五城目小学校教諭）
・研修期間：平成31年４月１日～令和２年３月31日
・研修テーマ「博物館の資料を活用したふるさと教育教材の開発」～秋田の先覚記念室資料作成を通して～

7　館外活動

◇執筆（著者・論文など、「研究報告第45号」は除く）

・梅津一史
「秋田県にかほ市におけるラミーカミキリの採集記録」（月刊むし　No.585）

◇講演、講座など

・髙橋　正
「鳥海山信仰と人びとのくらし」（由利耕心大学）
「羽後町の文化財－信仰にかかわる彫刻・絵画を中心に－」（羽後町れきみん文化講演会）

・松山　修
「内田武志・ハチ兄妹の真澄研究」（文化講演会、鹿角市先人顕彰館）
「菅江真澄と鉱山の記録～他館での展示活用について」（大学博物館等協議会2019年度大会、秋田大学）

・梅津一史
「捕まえた虫で標本を作っちゃおう！」（白神山地世界遺産センター藤里館）
「秋田県立博物館の昆虫標本」（青森県昆虫談話会）
「こども昆虫教室」（新潮社記念文学館）

・新堀道生
「秋田の歴史と地域性」（県立大学あきた地域学）
「佐竹氏の横顔」（秋田市歴史懇話会）

・斉藤洋子
「ものをうみだす暮らしのゆくえ－福島県昭和村のからむし織文化－」（秋田公立美術大学）

・角崎　大
「真澄が描いたアイヌ」（男鹿市菅江真澄研究会研修会）
「菅江真澄と比内」（大館市比内芸術文化祭講演会）
「菅江真澄と郷土の歴史」（男鹿市角間崎友輪みどりの会講演会）

◇委員委嘱

・新野直吉
史跡払田柵跡調査指導研究委員（委員長）
後三年合戦（役）等関連遺跡整備指導委員会特別委員
由理柵・駅家研究会顧問

・髙橋　正
横手市文化財保護審議委員
美郷町文化財保護審議委員
百宅地区の記録保存委員会委員
横手市歴史文化基本構想策定委員会委員
湯沢市歴史文化懇話会委員
湯沢市文化財保存活用地域計画作成協議会委員
文化財収録作成調査委員

・梅津一史
国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー
秋田県版レッドデータブック改訂検討委員会委員

・藤原尚彦
大潟村干拓博物館協議会委員

・新堀道生
由利本荘市文化財保護審議会委員
文化財収録作成調査委員

・丸谷仁美
由利本荘市民俗芸能伝紹介運営協議会委員
横手市文化財保護審議会委員
湯沢市文化財保護審議会委員
日本民具学会評議員

8　2019年度のあゆみ

◇防災訓練　　５月23日(木)

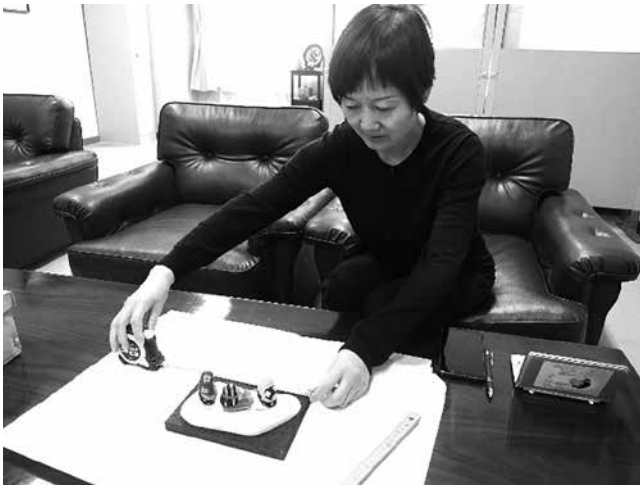
本館及び分館において地震発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

◇第１回秋田県立博物館協議会　　７月31日(水)

現行中期ビジョンの評価と、令和２年度から５か年の中期ビジョンの策定について協議を行った。

◇甘粛省研修員来館　　10月２日(水)～10月29日(火)

甘粛省博物館で計画されている2020年の展覧会に向けた準備のため、同館の葛雅莉氏が来県し、博物館及び埋蔵文化財センターで研修を行った。



◇応急手当講習会　　11月7日(木)

土崎消防署救急隊員を講師に招き、心肺蘇生法の手順とＡＥＤの操作方法の講習会を実施した。

◇文化財防火デー防災訓練　　１月23日(木)

１月26日の文化財防火デーに因み、重要文化財である旧奈良家住宅(分館)において、火災発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

◇第２回秋田県立博物館協議会　　２月14日(金)

令和２年度から５か年の中期ビジョン案について協議を行った。

◇秋田県立博物館中期ビジョン2020－2024策定

３月19日(木)

館内職員による将来構想委員会及び博物館協議会で検討を重ね、令和２年度から５か年の新たな中期ビジョンを策定した。

資　　料

Ⅰ　収蔵資料の概要

収蔵資料総数　（令和２年４月１日現在）

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,759	450	13,712	9,045	2,640	10,533	125,722	17,098	5,502	2,232	190,693

文化財指定物件一覧（館蔵資料）

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第６号	紙本着色　秋田風俗絵巻	１巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財（絵画）
県	工芸	工芸第40号	刀　銘出羽住忠秀刻印	１口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第34号	鐔　壇渓図	１枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第53号	短刀　銘天野藤原高真作 元治元年吉日	１口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	１合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第62号	鐔（あやめ図透彫） 銘　出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	１枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第67号	刀　銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	１口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料（刀剣類ほか）	１括	平成11. 3.12	県指定有形文化財（工芸）
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保字狐森出土	１口	昭和53. 6.15	重要文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 （枯草坂古墳出土）	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器（沢田遺跡出土）	１点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品（青磁碗他）	１括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財（考古資料）
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内上掵出土	４箇	昭和63. 6. 6	重要文化財（考古資料）
県	歴史	歴史資料第６号	久保田城下絵図	１幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	歴史資料第７号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	１幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	１巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	１幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持（朋誠堂喜三二） 自筆作品並びに関係資料 （江都前後赤壁）	１点	平成30. 3.16	県指定有形文化財（書跡・典籍）
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	１棟	昭和40. 5.29	重要文化財（建造物）
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田杣子造材之画	１点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス（標本）	１点	平成20. 7.28	登録記念物

Ⅱ　歴代館長、特別展等一覧

名誉館長

新　野　直　吉	平成12年４月～

歴代館長

佐　藤　文　夫	昭和50年５月～昭和52年３月
加賀谷　辰　雄	昭和52年４月～昭和53年３月
奈　良　修　介	昭和53年４月～昭和58年３月
畠　山　芳　郎	昭和58年４月～昭和63年12月
斉　藤　　長	昭和64年１月～平成元年３月
佐　藤　　巌	平成元年４月～平成３年８月
橋　本　顕　信	平成３年９月～平成４年３月
近　藤　貢太郎	平成４年４月～平成７年３月
高　橋　彰三郎	平成７年４月～平成９年３月
新　野　直　吉	平成９年４月～平成12年３月
冨　樫　泰　時	平成12年４月～平成15年３月
佐々田　亨　三	平成15年４月～平成17年６月
三　浦　憲　一	平成17年６月～平成18年３月
沢　井　範　夫	平成18年４月～平成20年３月
佐々木　義　幸	平成20年４月～平成21年３月
鈴　木　幸　一	平成21年４月～平成22年３月
荒　川　恭　嗣	平成22年４月～平成23年３月
神　馬　　洋	平成23年４月～平成25年３月
風　登　森　一	平成25年４月～平成27年３月
佐々木　人　美	平成27年４月～平成29年３月
山　口　多加志	平成29年４月～平成30年３月
山　田　浩　充	平成30年４月～平成31年３月
髙　橋　　正	平成31年４月～

特別展等一覧

昭和53年１月	地域展	伝説の里鹿角
７月	特別展（東京国立博物館巡回展）	日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年１月	地域展	鳥海山麓－山と人－
７月	特別展	日本の時代服飾
56年９月	東北展	東北の仮面
58年１月	地域展	平鹿－水とくらし－
７月	特別展	はにわ
59年５月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年７月	特別展	世界の貝
62年６月	東北展	出羽の近世大名
63年５月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年６月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
２年７月	特別展	日本のやきもの
３年４月	特別展	世界の昆虫
４年７月	特別展	近世美術の華
５年４月	特別展	鳥ってなあに
６年４月	特別展	北方文化のかたち
７年４月	特別展	地球を見つめる小さな眼
８年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
９年11月	特別展	日本のわざと美
平成10年４月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年４月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展（国立博物館美術館巡回展）	信仰と美術
16年９月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年７月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年９月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年７月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年７月	特別展	昆虫の惑星
21年４月	特別展	白岩焼
22年５月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年７月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年９月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年７月	特別展	あきた大鉄道展
26年９月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年９月	特別展	徳川将軍家と東北
28年９月	特別展	発掘された日本列島2016
29年７月	特別展	妖怪博覧会 ～秋田にモノノケ大集合！～
30年７月	特別展	あきた大鉄道展　HE－30系
令和元年７月	特別展	1964－世界の祭典から半世紀－

Ⅲ　秋田県立博物館条例

（昭和50年３月12日公布
昭和50年５月１日施行
平成31年10月１日最終改正）

（設置）

第１条　郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館（以下「博物館」という。）を秋田市金足鳥崎字後山52番地に設置する。

（職員）

第２条　博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（博物館協議会）

第３条　博物館に秋田県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会は、委員15人以内で組織する。

３　委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

一　学校教育及び社会教育の関係者

二　家庭教育の向上に資する活動を行う者

三　学識経験のある者

四　博物館の利用者

４　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（入場料等の徴収）

第４条　博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

２　前項の入館料の額は、別表第１に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

３　地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の４第７項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第２に定めるところにより使用料を徴収する。

（入館料等の減免）

第５条　知事は、特別な理由があると認めたときは、入館料又は使用料を減免することができる。

（入館料等の不還付）

第６条　既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めたときは、その一部又は全部を還付することができる。

（施行規定）

第７条　この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第１（第４条関係）

入館料の上限額

区　　分	金　　額	
	個　　人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	１人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	１人につき 320円
一　　般	600円	１人につき 480円

備考：この表における「小学校児童及び中学校生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

別表第２（第４条関係）

区　　分		金　　額
講　　堂	１　日	11,940円
	半　日	5,970円
学 習 室	１　日	3,560円
	半　日	1,780円

Ⅳ　秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎　秋田県教育委員会行政組織規則

第26条　秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

一　博物館事業の企画運営に関すること。

二　資料の収集、保管及び展示に関すること。

三　資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。

四　資料の解説及び広報活動に関すること。

五　秋田県立博物館協議会に関すること。

◎　教育機関の管理及び運営に関する規則

第９章　博物館

（開館時間）

第38条　秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期　　間	時　　間
４月１日から10月31日まで	午前９時30分から午後４時30分まで
11月１日から３月31日まで	午前９時30分から午後４時まで

（休館日）

第39条　博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　月曜日（当該日が休日又は８月29日に当たるときは、その翌日）

二　年始（１月１日から１月３日まで）

三　年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条　講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の４第７項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

２　第11条第２項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

Ⅴ　入館者に関する資料

(1)　入館者数内訳

平成30年度

総入館者数　130,244人

有料展示

あきた大鉄道展　HE－30系

2019年度

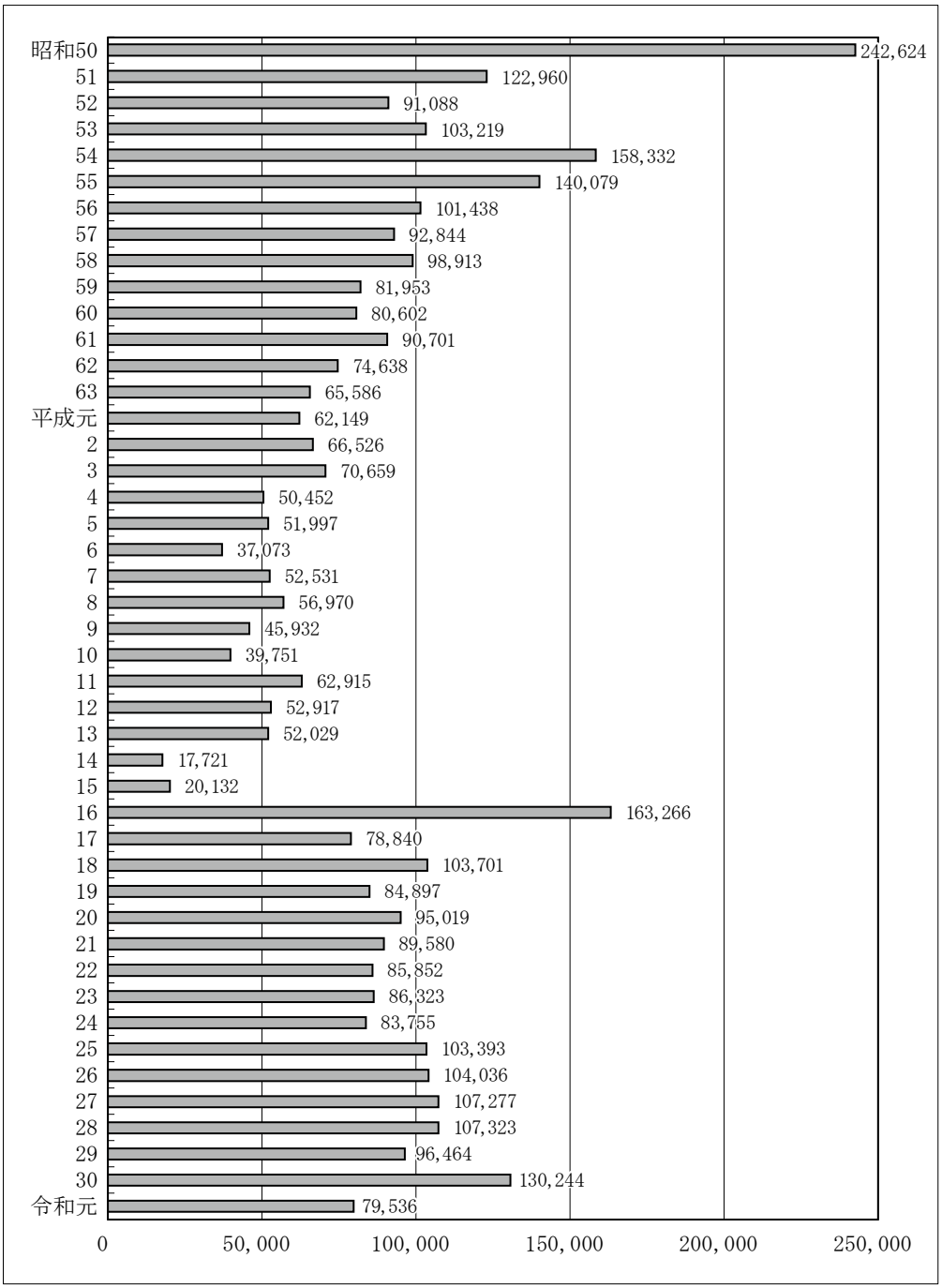
総入館者数　79,536人

有料展示

1964－世界の祭典から半世紀－

(2)　年度別入館者数の推移

延べ入館者数　　3,884,237人（2019年度末）



※平成14･15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利　用　案　内～

開館時間　４月～10月　午前９時30分～午後４時30分
　　11月～３月　午前９時30分～午後４時

休　館　日　・月曜日
（ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日）
・年末年始
（12月28日～１月３日）
・燻蒸消毒の期間
令和２年度は８月24日(月)～８月31日(月)

入　館　料　通常料金　　無料
平成11年４月１日から、博物館の入館料が無料になりました（本館・分館とも）。
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使　用　料

区　　分		金　　額
講　　堂	１　日	11,940円
	半　日	5,970円
学 習 室	１　日	3,560円
	半　日	1,780円

～交　通　案　内～

本　　館
ＪＲ東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バ　　ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車　　：秋田自動車道昭和男鹿半島ＩＣより10分、秋田北ＩＣより15分
秋田市中心部から国道７号で約15km・30分

分　　館
ＪＲ東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分
バ　　ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

令和２年６月発行

〒010－0124
秋田市金足鳥崎字後山52
秋田県立博物館
ＴＥＬ　018－873－4121
ＦＡＸ　018－873－4123